

H24年度 文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」

学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公共の担い手となる人材育成モデル構築をめざして  
～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～

# 報 告 書

平成25年3月

南大阪地域大学コンソーシアム



## 目 次

第1章 効果的な子ども堺学・キャリア教育サポーター育成をめざして	3
1. 本事業における子ども堺学・キャリア教育サポーターの必要性	3
(1) 学校課題からの必要性	4
(2) 地域課題からの必要性	4
2. 本事業の概要	5
(1) 目的・趣旨	5
(2) 実施内容	5
(3) 実施方法	7
(4) 本事業の特徴と強み	8
3. 実施体制	9
(1) 南大阪地域大学コンソーシアムの実施体制	9
(2) 連携による実施体制及び役割	9
4. 年間実施スケジュール	11
第2章 実施報告	12
1. 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成について	12
(1) 募集について	12
(2) 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座説明会の実施	12
(3) 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の実施	13
(4) 北八下小学校授業参観の実施	17
(5) 子ども堺学に関する情報収集の課題提出～学びから実践へ～	17
(6) 子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修の実施	18
2. 修了者に対する資格認定について	20
3. 受講生振り返り及び受講後アンケート結果について	21
(1) 受講後アンケートの結果	21
(2) 振り返りアンケートの結果	28
4. 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座募集・認定・管理システム構築およびホームページの作成	32
第3章 成果について	33
1. 大学と教育委員会との協働による新しい公共の担い手となる人材育成モデルの構築	33
2. サポーター研修の受講生から見る新しい公共の担い手像の抽出	33
3. 子ども堺学・キャリア教育サポーターの輩出	36

4. 子ども堺学・キャリア教育サポーター情報サイトの構築による基盤整備の強化	37
第4章 新しい公共の担い手となる人材育成への提言	38
1. 新しい公共の担い手となる人材育成への提言	38
2. 新しい公共の担い手にとっての資格認定の意味	39
資料1 「子ども堺学」について	43
資料2 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座ホームページ	47
資料3 第1回、第2回協議会 資料	49

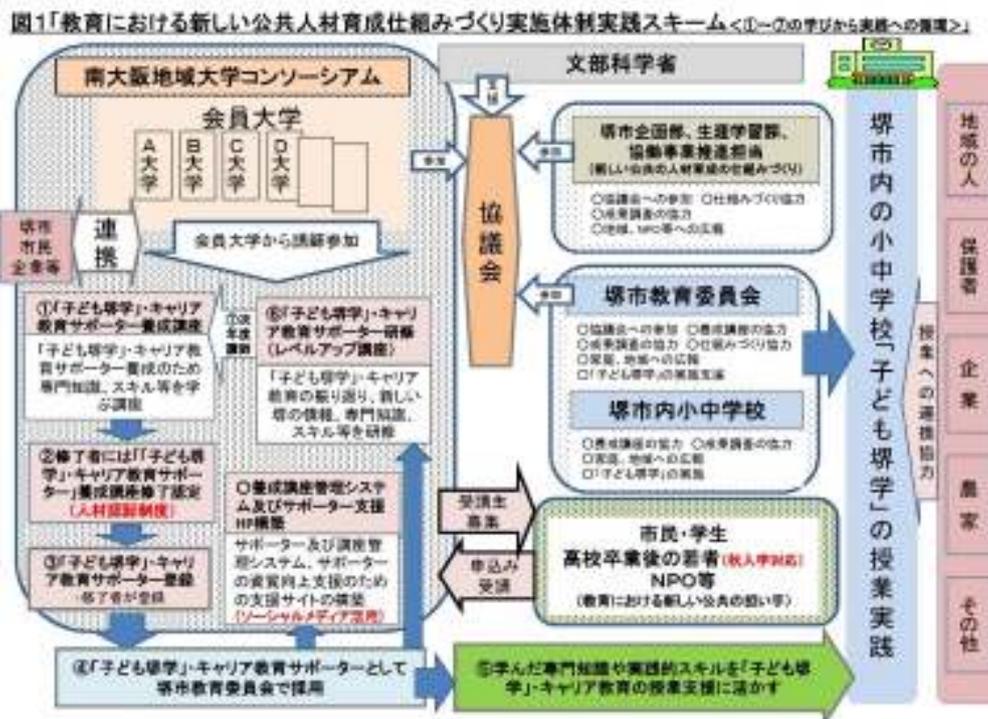
# 第1章 効果的な子ども堺学・キャリア教育サポーター育成をめざして

## 1. 本事業における子ども堺学・キャリア教育サポーターの必要性

本事業は、学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公共の担い手となる人材育成モデル構築にむけて、南大阪地域の22の大学等の連携組織である南大阪地域大学コンソーシアム（以下は、「南コンソ」と記す。）を中心に、会員大学、堺市の関係部署（企画部、生涯学習課、協働事業推進担当）、堺市教育委員会が連携し、実施にあたる取組である。

新しい公共の担い手として期待される地域人材を養成するには、その地域での課題が何であり、その課題解決にどういったスキルや知識が必要となるのか、どういった人たちが担い手として対象となるのかなどの情報を多面的に把握する必要がある。と同時に、それらを解決に導くために必要となる知識やスキルを獲得した地域の人たちが、学んだことを実践に活かすことで、新しい公共が実現する。

そこで、スキルや知識を提供する大学、地域課題を解決するために市民協働を推進したい堺市の担当部署（企画部、生涯学習課、協働推進担当）、今回の実践事例となる堺市教育委員会が連携し協力体制をつくることで、高い効果を創出することをめざした。実践スキームは以下で示す通りである。（図1）



本事業は、(1) 学校の課題と(2) 地域の課題との両面から、その必要性が指摘されている。

## (1) 学校課題からの必要性

### ①「子ども堺学」(注1)の授業支援体制づくりの必要性

堺市の新しい試みである「子ども堺学」を柱にした小中一貫9年間のモデルカリキュラムが平成23年度に策定され、平成24年度試行、平成25年度本格稼働に向け、授業のサポート体制が必要となっている。

### ②「子ども堺学」の学校、家庭、地域等の連携協力体制づくりの必要性

「子ども堺学」は、地域の生きた教材を体験することを何よりも大切にしており、地域の教育資源を活用した教育の実現をめざしていることから、「子ども堺学」・キャリア教育を実践するために、学校、地域、企業、大学等の協力体制づくり及び意識の向上が必要不可欠であり、その環境づくりが課題となっている。

(注1) 堺市では、平成23年度から、子どもたちが堺に愛着と誇りを持ち、「それぞれの世界へはばたく“堺っ子”」としてふさわしいアイデンティティと自己実現のための「生きる力」をはぐくむことを目的とした「子ども堺学」(「子ども地域学」を上位概念とする)を構築し、「キャリア教育」「子ども堺学」「自己指導力(規範意識の醸成)」「言語力向上」を柱とする小中一貫した9年間のモデルカリキュラムを開発してきた。子ども堺学の9年間の小中一貫モデルカリキュラムができ上がったことで、今後堺市では、堺を教材として「生きる力」や総合的な学力の育成を行うことが予定されている。開発にあたっては、南コンソが協力・支援を行っている。「子ども堺学」は、地域の生きた教材を体験することを何よりも大切にしており、地域の教育資源を活用した教育の実現をめざしている。平成24年度からモデル校にて試行が始まっている。(資料1「子ども堺学」について)を参照。)

## (2) 地域課題からの必要性

### ①学習成果を活動に活かす仕組みの未整備

地域活動・ボランティア活動・NPO活動や社会的課題に関する学習を行っている市民の割合が増えており、生涯学習による地域貢献への意向が増加しているものの、学習成果や市民意識を活動に活かす仕組みが未整備である。

### ②市民の自主的な活動や協働の取組みを活かす仕組みの未整備

市内のNPO法人やボランティア団体等の市民活動団体の数は増加傾向にあり、市民の自主的な活動や協働の取組みが活発になっているものの、市民の活動を活かす仕組みが未整備である。

### ③新しい公共の仕組みの未整備

堺市では、地域力が最大限に生かされた、きめ細かで特色あるまちづくりを推進することを市政運営の基本理念の一つに掲げており、新しい公共をめざし市民協働事業を推進し

ているが、その担い手となる人材育成とそれらを活用する仕組みが未整備である。

#### ④循環型生涯学習社会の実現を目標

堺市第3期生涯学習推進プランとして、堺のまなびの“わ”の構築として、「循環型生涯学習社会」の実現をめざしており、その仕組みづくりが緊急の課題である。

## 2. 本事業の概要

### (1) 目的・趣旨

新しい公共の担い手としてNPOや地域住民の力が期待されているものの、新しい公共を実現するために必要となる実践的スキルや専門知識等がまだ十分に備わっていないことも多い。一方近年、地域活動・ボランティア活動・NPO活動や社会的課題に関する学習を行っている市民の割合が増えており、生涯学習による地域貢献への意向も増加しているものの、学習成果を活動に活かす仕組みがまだ十分に整備されていない。公共サービスの質を保証していくためにも、NPOや地域住民の実践力を育成し、活動につなげていく新しい仕組みづくりが喫急の課題となっている。前述の地域課題にみるように、堺市でも同様の課題を抱えている。

そこで、本事業は、新しい公共の担い手として、専門知識・スキルをもった人材を育成し、活動につなげていく仕組みづくりをめざす。そのために、「学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公共の担い手となる人材育成モデル構築」にむけて、南大阪地域の22の大学等の連携組織である南コンソを中心に、会員大学、堺市の関係部署（企画部、生涯学習課、協働事業推進担当）、堺市教育委員会が連携し、モデル事業を実施する。

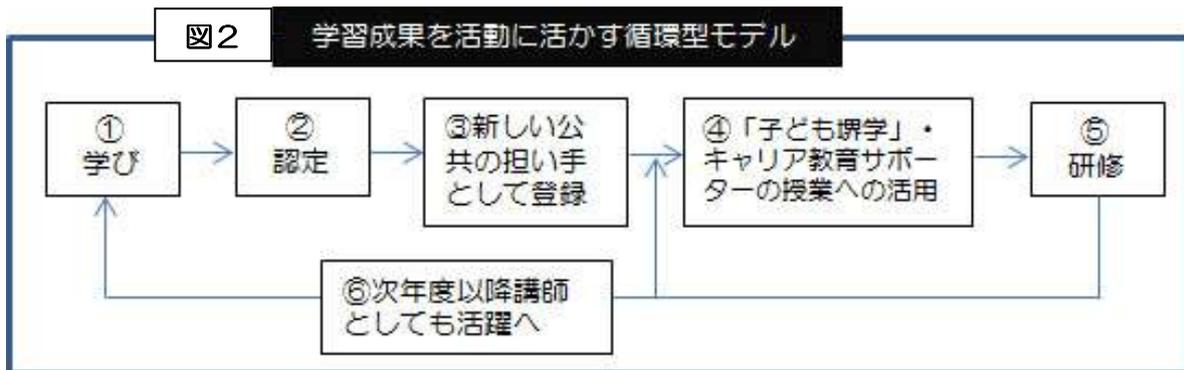
本事業を実践するにあたり、実践事例として、平成24年度より「子ども堺学」の試行を予定している堺市教育委員会と連携し、「子ども堺学」の授業を支援する子ども堺学・キャリア教育サポーターの養成・認定・研修を実施し、仕組みづくりのモデル事業とする。

なお、秋入学対応として高校卒業後の若者も「子ども堺学」・キャリア教育の支援員として受け入れを組み込み、高校卒業後の若者も養成講座の受講対象者にして秋入学に備えた場の提供をめざす。

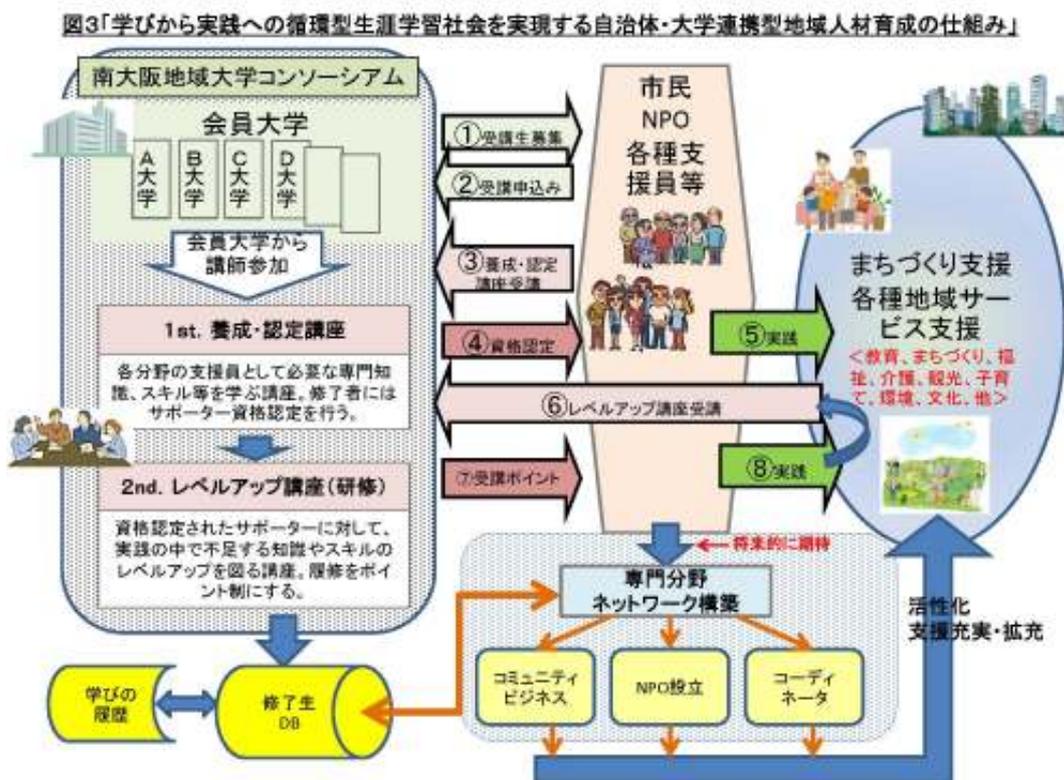
### (2) 実施内容

上記目的である「学びを活動に活かす仕組みづくり」を解決するために、モデル事業として、大学の強みを生かした人材育成ができる南コンソと堺市教委、堺市が連携協力し、「子ども堺学・キャリア教育サポーター」と名付けた新しい支援人材育成を具体的事例として取り組み、以下を実施した。

- ①子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の実施
- ②本養成講座の修了者に対する「子ども堺学・キャリア教育サポーター」の認定
- ③認定者を新しい公共の担い手として登録し、ネットワーク化
- ④堺市教委の協力による子ども堺学・キャリア教育サポーターの堺市立小中学校での活用
- ⑤子ども堺学・キャリア教育サポーター研修（スキルアップ講座）の実施
- ⑥育成された子ども堺学・キャリア教育サポーターは、次年度以降養成講座の講師としても活躍



◆上記を実施することで、学んだ専門知識やスキルを実践の場で活かすことができる人材育成モデル事業として「子ども堺学・キャリア教育サポーターの育成及び活動支援」を実現させ、「学びから実践へ」の実践の形が明確な事業を展開する。その仕組みは以下の通りである。（図3）



### (3) 実施方法

上記内容を円滑かつ高い成果を上げるよう推進するために、以下を実施した。

#### ①協議会を設置

本事業の円滑な推進と連携協力体制をつくるために、協議会を設置した。協議会では、養成講座の実施、認定制度づくり、研修の実施等について検討し、本事業の円滑な推進と高い成果をめざすとともに、新しい公共の担い手の人材育成の基盤づくりとして本事業のモデル化を図り、他の分野への応用について堺市と検討した。協議会メンバーは以下の通りである。

##### ◆協議会メンバー

南コンソ、南コンソ会員大学、堺市教育委員会、堺市企画部、堺市生涯学習課、堺市協働事業推進担当

#### ②子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の公募及び実施

「子ども堺学・キャリア教育サポーター」と名付けた新しい支援人材育成の取り組みとして、NPO、地域住民等、大学生、秋入学対応として高校卒業後の若者を対象にした「子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座」を実施した。

講座は、南コンソ会員大学の「子ども堺学」検討委員会メンバー及びキャリア教育担当教員、小中学校の教員、堺市教育委員会等の協力を得て、「子ども堺学」及びキャリア教育に関する専門知識・スキルの習得並びに、授業実践する際に必要となる教育資源となる地域人材とのコーディネートの方法などを学ぶ内容とした(表●「養成講座講義一覧」参照。)。なお、講座の募集は南コンソが行ったが、堺市企画部及び生涯学習課からは市民、堺市協働事業推進担当からはNPO等、堺市教委からは学校や保護者や高校生に対する告知への協力を得て実施した。

#### ③修了認定及び新しい公共の人材バンク登録によるネットワーク化と実践

南コンソが大学連携組織であることの強みを生かし、上記養成講座の修了者には南コンソが修了認定を行い、子ども堺学・キャリア教育サポーターとしての認定を行った。希望者は人材バンクに登録し、今後新しい公共の担い手としてネットワーク化を図ることとした。養成されたサポーターについては、地域の教育資源の情報収集支援等を行う子ども堺学・キャリア教育サポーターとして小中学校にて活用することとした。

今回養成したサポーターの実践の場については、2学期から試行が始まった「子ども堺学」のパイロット校4校の授業支援に入ることにしても堺市教育委員会と検討したが、子ども堺学がまだ学校現場に導入されていないこともあり、学校で子ども堺学に対する理解がまだ行きわたっていない状況の中で、外部人材が学校に入ることによって混乱が生じる可能性があるとの判断から、今回は、養成したサポーターの実践の場については、地域の教育資源の情報収集支援による子ども堺学ポータルサイトの充実に限ることとした。

#### ④「子ども堺学・キャリア教育サポーター研修」(スキルアップ講座)の実施

子ども堺学・キャリア教育サポーターの継続した資質向上を図るとともに、「子ども堺学」の理解促進とスキルアップを図るために、堺市教育委員会と連携してスキルアップ研修を導入し、実施した。

#### ⑤Web用「子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座募集・認定・管理システム構築およびホームページの作成

受講生及び認定者の円滑な管理・運営を図るために、子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の募集・認定・管理のWeb用システムを構築した。

また、子ども堺学・キャリア教育サポーターの継続した資質向上と事業推進を図るために、サポーターが情報収集できるようホームページを作成し、子ども堺学・キャリア教育サポーターへのスキルアップ研修や、情報提供等を行うこととした。

#### ⑥アンケート調査

本事業の開始時、実施中、実施後において、研修の成果・効果を客観的な指標に基づいて測定した。アンケートについては、開始時には、どんな人が本講座を受講しているかを調査し、今後の対象把握の基礎データとすることとした。実施中及び実施後については、本研修の内容について検証し、今後の研修及びスキルアップ研修に活かすこととした。

### (4) 本事業の特徴と強み

本事業は、南コンソのもつ強みを存分に生かした内容となっている。その強みは、以下に示すとおりである。

#### ①大学連携組織であることを活用

南コンソは、大学・短大・専門学校（以下、大学等と記す。）を会員とする連携組織であることから、大学等がもつ専門性やその知的資源を活用し、質の高い「子ども堺学」及びキャリア教育の支援人材育成の講座や研修を安価で行うことができる。

#### ②堺市教委と包括協定を締結

南コンソは、設立当初から堺市から助成金の支援を受けるなど深い連携を行っているとともに、堺市教育委員会と包括協定を結んでおり、円滑に連携・協力して事業推進にあたることができる。

#### ③多様なネットワークをもつ

南コンソは、産官学地域連携の推進を事業の柱の1つにしていることから、大学だけでなく企業や自治体等とのネットワークを多く有しており、多様な講座の充実を図ることができる。

る。また、「子ども堺学」で求められる学校、地域、企業、大学等が協力する環境づくりに南コンソのもつ多様なネットワークを活用することができる。

#### ④「学びから実践」につなげる新しい公共の担い手人材育成の基盤整備モデル事業

南コンソでは、「新しい公共」において大学の果たす役割は大きいと捉えており、その担い手として期待されている NPO や地域住民の実践力育成のために学習機会を数多く提供してきた。学んだことを活動に活かす仕組みづくりの遅れから、今一つ広がりや欠いていた従来の人材育成に対して、本モデル事業は具体的な実践の形が組み込まれていることから、新しい公共の担い手育成の基盤整備モデル事業として、学校支援員だけでなく他の多様な分野についてもモデル事業となることが期待できる。(図3参照。)

### 3. 実施体制

#### (1) 南大阪地域大学コンソーシアムの実施体制

南コンソの実施体制は以下のとおり。

- 取組責任者：奥野 武俊（特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム理事長、大阪府立大学学長）<略歴>大阪府立大学工学部教授を経て、2009年4月より現職。2011年より公立大学協会会長。
- 実施責任者・経理責任者：寺迫 正廣（南コンソ事務局長、大阪府立大学副学長）
- 事務局体制：南コンソの統括コーディネータ、事業担当担当（2名）、総務・会計担当等により、本事業が円滑に推進されるよう事業全体の取りまとめ及び連携体制強化を図った。
- 大学教員
  - ①協議会委員：各大学から推薦された委員。
  - ②講座講師：子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の講師として参加。

#### (2) 連携による実施体制及び役割

本事業の実施に際し、本団体と堺市教育委員会、堺市（企画部、生涯学習課、協働事業推進担当）は以下の役割を担い、事業を円滑に推進した。(図1参照。)

<p>◆南大阪地域大学コンソーシアム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①本事業の推進にあたりとりまとめ</li><li>②子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座公募及び実施に係る業務</li><li>③修了者認定</li><li>④認定者の子ども堺学・キャリア教育サポーターの情報収集実践支援に係る業務</li><li>⑤子ども堺学・キャリア教育サポーター研修（レベルアップ講座）の実施に係る業務</li><li>⑥Web用「子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座募集・認定・管理システム開発及びホームページ作成」に係る業務</li><li>⑦協議会の開催、運営に係る業務</li></ul>
--

⑧アンケート作成、実施、検証等に係る業務 ⑨報告書の作成 ⑩本事業の関係各部との連絡調整
<b>◆堺市教育委員会（以下、堺市教委と記す。）</b>
①子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の協力 ②子ども堺学・キャリア教育サポーター活用のためにスクールサポーター派遣の取り組みとの連携の検討 ③小中学校における「子ども堺学」の授業参観への子ども堺学・キャリア教育サポーター受け入れ支援 ④子ども堺学・キャリア教育サポーターが収集し、作成した情報について、子ども堺学ポータルサイトへの掲載に向けた検討 ⑤協議会への参加協力
<b>◆堺市企画部、生涯学習課、協働事業推進担当</b>
①協議会への参加協力 ②新しい公共の担い手となる人材養成の仕組みづくりの検討 ③養成講座の市内への広報協力

#### 4. 年間実施スケジュール

本事業は、以下のスケジュールで実施した。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会開催		⇔				⇔			
講座募集			⇔	⇔					
講座開催					⇔				
修了認定					⇔				
子ども堺学情報収集&HP用情報作成					⇔	⇔	⇔		
スキルアップ研修						⇔		⇔	
Web構築&HP作成		⇔	⇔	⇔	⇔	⇔			
アンケート				⇔	⇔	⇔			
報告書								⇔	

## 第2章 実施報告

### 1. 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成について

#### (1) 募集について

子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の11月開催を受け、下記の通り公募を行った。

開催時期	11月9日、14日、16日、19日、22日（北八下小参観）
広報	広報さかい掲載（10/1掲載）。生涯学習課にて質問の受付。
公募方法	インターネット、電話、ファックスにて申込を受付。

#### (2) 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座説明会の実施

公募に当たっては、子ども堺学が新しい取組であることから、協議会の要望を受けて事前に説明会を開催し、広く市民に主旨を伝えていくこととした。

説明会の内容は以下の通りである。

開催日時	10月15日（月）13：30～15：30
内容	①堺市教委から、堺市小中学校の教育方針と現状と課題について説明 ②南コンソからは、子ども堺学について、めざすところ、内容、市民に期待するところ等について説明

■子ども堺学・キャリア教育サポーター説明会 <場所：さかい新事業創造センター 1階多目的会議室>

日にち	時限（分）	内容	講師
10/15 （月）	1時限 （30）	堺市小中学校の現状と課題 ・堺市の学力観とつきたい力 ・小中一貫教育について ・子どもたちの現状	堺市教育委員会 （学校企画課総括指導主事 間地）
13：30 ～ 15：30	2時限 （90）	1.「子ども堺学」って何？（40） 2. 子ども堺学・キャリア教育サポーターへの期待と役割（50） ①地域資源について考えよう ②教育資源となる地域資源・人材の発掘 ③子ども堺学・キャリア教育サポーターの役割と期待	「子ども堺学」委員 （プール学院大学 岡崎）

### (3) 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の実施

「子ども堺学」は、堺市教育委員会で全国に先駆けて取り組んでいる小中9年間一貫の地域の教育資源を活用した総合的な学力向上をめざした教育であることから、講座の内容は以下を中心とした。南コンソの「子ども堺学」協議会委員も適宜参加し、子ども堺学のめざすところを伝えるようにして、受講生の理解が深まるようプログラムを工夫した。

受講生は以下の通りであった。

#### ■受講生及び修了認定者について

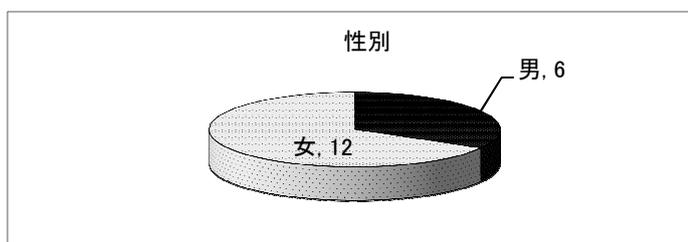
説明会参加者	応募者数	受講者数	修了認定者数
12人	18人	15人	15人

#### ■受講生の分析

表1	受講生数	18
----	------	----

性別

男	6
女	12



	計	男	女
20代以下	0	0	0
30代	0	0	1
40代	8	1	7
50代	2	0	2
60代	4	4	0
70代以上	1	1	0
不明	3	0	2
合計	15	6	12

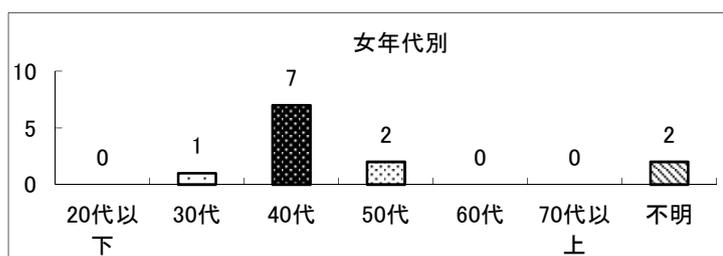
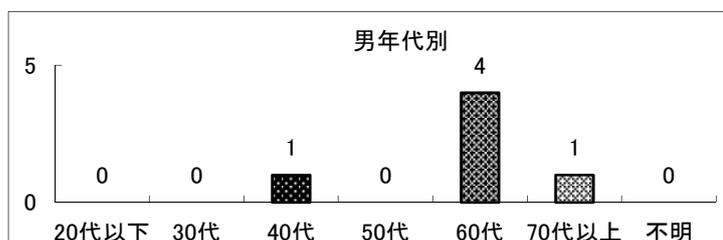
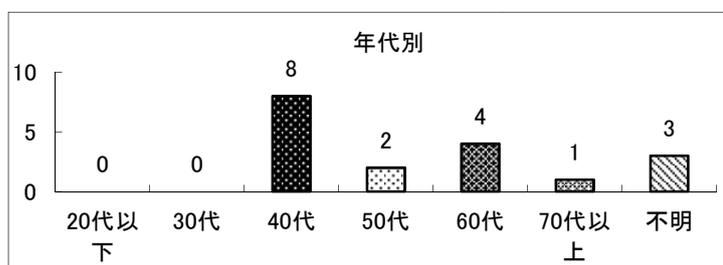
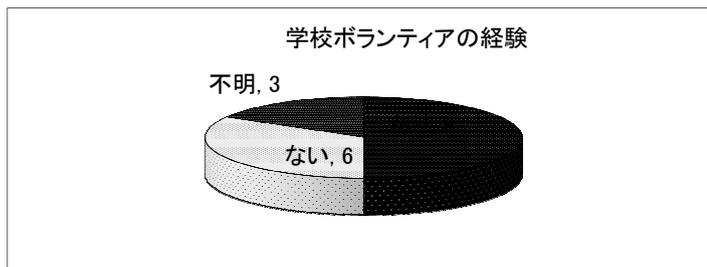


表3 学校ボランティアの経験

あり	9
ない	6
不明	3



住まい

堺市	15
----	----

養成講座の内容については、以下の項目をプログラム化した。養成講座の講義一覧は表4に示した通りである。

- ①学校への理解
  - ・堺市の小中学校の現状を知る
  - ・学校で行われている総合的な学習について
  - ・授業参観
- ②「子ども堺学」への理解
  - ・「子ども堺学」とは
  - ・小中学校の実践事例
  - ・「子ども堺学」の授業の疑似体験
  - ・授業参観
- ③子ども堺学・キャリア教育サポーターの仕事への理解
  - ・子ども堺学・キャリア教育サポーターの役割理解
  - ・子ども堺学・キャリア教育サポーターの活動内容
- ④地域の教育資源への理解
  - ・地域の教育資源とは
  - ・地域の教育資源の収集の実践（実践課題）

■表4子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座講義一覧

〈場所：さかい新事業創造センター 1階多目的会議室〉

日にち	時限 (分)	内容	講師
1日目 11/9 (金) 13:30 ～ 15:40		開講式	南コンソ 事務局長 (大阪府立大学副学 長 寺迫 正廣)
	1時限 (50)	堺市小中学校の現状と課題 ・堺市の学力観とつきたい力 ・小中一貫教育について ・子どもたちの現状 ・子ども堺学がめざすところ	堺市教育委員会(学校 企画課総括指導主事 間地 洋介)
	休憩(10)		
	2時限 (70)	「子ども堺学」について ・「子ども堺学」とは何か ・地域の教育資源を活用した教育の実現 ・振り返り	「子ども堺学」委員 (帝塚山学院大学 教授 岩崎 裕保)
2日目 11/14 (水) 10:00 ～ 12:10	3時限 (60)	小中学校における実践事例の紹介 ・堺を教材とした学習 ・総合的な学習の取組み ・キャリア教育、環境教育の取組み	「子ども堺学」委員 (プール学院大学 准教授 石原 陽子)
	休憩(10)		
	4時限 (60)	子ども堺学・キャリア教育サポーター の仕事について(30) ・「子ども堺学」やキャリア教育の授業支援 ・教育資源となる地域人材と学校とのコー ディネート ・必要となる教育資源の収集 ・授業に協力した経験のある地域の方から 体験談を聞くあるいは自らが語り部 ●課題をわたす ①資源となるテーマの詳細説明 ②校区や区にある教育資源を見つける 教育資源を集めるときに注意すべき ことを考える(30) 振り返り	「子ども堺学」委員 (プール学院大学 准教授 岡崎 裕) 羽衣国際大学 准教 授 玉井 敏晴

3日目 11/16 (金) 13:30 ～ 15:40	5・6時限 (120) 休憩10分	学習プログラムを実際に体験してみよう(ワークショップ) ・モデル授業を体験する(50) ・サポーターの役割を考える(70) 振り返り	「子ども堺学」委員 (プール学院大学 准教授 山崎 明宏)  プール学院大学 准教授 岡崎 裕)
4日目 11/19 (月) 13:30 ～ 15:40	7時限 (80)	教育資源の収集について考えよう(ワークショップ) ・「子ども堺学」のポータルサイトを使って教育資源について考える ・どんな教育資源を収集すればよいかを考える	「子ども堺学」委員 プール学院大学 准教授 岡崎 裕
	休憩(10)		
	8時限 (30)	振り返り 今後の活動について	「子ども堺学」委員 プール学院大学 准教授 岡崎 裕
	(10)	修了式(修了証授与)	南コンソ 事務局長 (大阪府立大学副学 長 寺迫 正廣)
5日目 11/21 (水)	授業参観	子ども堺学の授業を参観 ○北八下小学校 11/21(水)13:45 5時間目:小1生活科 6時間目:小4総合的な学習 終了後:講和 大阪教育大学の先生	
12/12 (水)	課題提出	「子ども堺学」ポータルサイトに収容する堺市の情報について、提供された課題テーマと自由課題の2種類を提出	

※講座を修了した者に対して「子ども堺学・キャリア教育サポーター講座」の修了認定を行った。  
 ※やむを得ぬ事情で参加できない場合、講習ビデオと資料にて自習し、レポート提出により出席扱いとした。(原則1回まで認定)

養成講座を通して、受講生の様子は以下の通りであった。

■子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座を実施しての感想

1日目（理論）	堺市の学校で実施する驚き、でも何をするのか？
↓	
2日目（役割）	サポーターの仕事を少し理解、でも不安と期待
↓	
3日目（体験）	体験を通してサポーターとして何が出来るかを考えるようになる
↓	
4日目（情報収集）	情報収集の難しさを実感、期待される役割に期待感
↓	
5日目（北八下小）	学校の授業に参加してさらに期待と役割意識が膨らむ

受講生のほぼ全員から、「子ども堺学」が堺の子どもたちの学びとして取り組まれていることへの期待と、そこに自分たちが出来る役割があることを改めて自覚し、子どもたちの役に立てることは何でも協力したいとの発言が相次いだ。

（4）北八下小学校授業参観の実施

子ども堺学が実践されている様子を体験するために、受講生は北八下小学校で授業参観を行った。授業を実際に見学することで、養成講座で学んだことが学校現場でどのように展開され、子どもたちがどのように学んでいるかを知る機会とした。

また、参観した授業は研究授業であったことから、大学教授による授業に対する講和があった。受講生は、講和を聞くことで、授業の大切なポイントを改めて認識する機会となった。

（5）子ども堺学に関する情報収集の課題提出～学びから実践へ～

本講座では、学んだことを実践に活かすことを目的の1つとしていることから、本講座を通しての課題は、①子ども堺学・キャリア教育サポーターとして堺の情報について2種類の情報収集及び②収集した情報を「子ども堺学」ポータルサイトに掲載可能な原稿の作成、を課した。課題による実践を通じて、子ども堺学・キャリア教育サポーターとして具体的に何をするのかを知り、サポーターとしての在り方を考える機会とした。

情報収集に市民の協力を得たいという発想は、現場の教師や子どもたちが、堺のことをあまり多く知らないということがあり、「地元ことは地元で聞け」に立ち返って、市民の協力を得ることにしたことが背景にある。

受講生に課した課題は以下の通りである。

収集する情報は、

- ①南コンソから提供したテーマから1つを選択
- ②自由収集の2種類とした。南コンソから提供したテーマは、堺市教育委員会から提供されたテーマの一部である。

情報収集した結果については、以下のことが課題や期待として浮かび上がってきた。今後、子ども堺学やキャリア教育に市民の協力を得る仕組みづくりに貴重な経験知を得ることができた。

- ①提出された情報については、書き方の見本を示したのだが、子どもたちにとっての分かりやすさという観点からは課題が散見され、今後研修するときの内容の検討課題としたい。
- ②市民それぞれがもっているフィールドをベースにした情報収集は、予想以上に期待できることが分かった。

## (6) 子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修の実施

子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の修了生を対象に、スキルアップ研修を下記の通り2回実施した。当初、スキルアップ研修は1回の予定であったが、情報収集の課題に対して、12月17日に提出された原稿が子ども堺学のポータルサイトに掲載できるレベルになかったため、受講生側から、堺市教育委員会の子ども堺学ポータルサイトに掲載できるレベルの原稿づくりをしたいとの要望により、急きょ、ブラッシュアップのための検討会と2月18日に追加のブラッシュアップ研修を実施することとした。

内容は、受講生の振り返りのときの発言をもとに、子ども堺学サポーターとして、自分たちにできることを考え、どんな役割を担うことができるのかを、実際情報収集を行ってみて、改めてみんなで考える内容とした。その中で、今後、市民としてどのように子ども堺学に関わっていけるかについて、意見交換し、将来への展望をみんなで考えることとした。

スキルアップ研修は次の通りである。

## ■子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修

日にち	時限 (分)	内容	講師
12/17 (月)	1 (120)	①情報収集資料を作成してみ ②北八下小学校の授業参観に参加してみ ③今後の展望について～子ども堺学に対して自分は何ができるか、何がしたいかを考える	「子ども堺学」委員 プール学院大学 准教授 岡崎 裕
2/18 (月)	1 (120)	①情報収集資料を「子ども堺学」ポータルサイト「とびだせ子ども堺学」に掲載する資料としてブラッシュアップ ②今後の活動について	「子ども堺学」委員 プール学院大学 准教授 岡崎 裕

12/17（月）に実施されたスキルアップ研修では、研修の課題として出された「情報収集」の活動を通して、受講生が感じたことについて意見交換した。出された意見から、今後、子ども堺学ポータルサイトに掲載する情報の収集時に課題となる点について貴重な提案が出された。特に、身分の明確化や収集した情報をまとめるためのフォーマットの必要性など、市民の方が円滑に情報収集にあたっていただくために、必要な項目についての意見が多く出された。提案は以下の通りである。

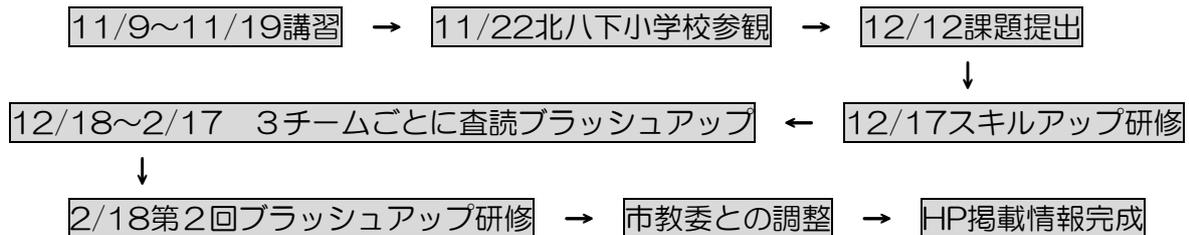
### <情報収集の際に重要なポイント>

- ①フォーマットの標準化：収集した情報をまとめるときのもう少し丁寧なフォーマットが必要。例えば建物やソフトでは情報の形が違うので、項目ごとにフォーマットを定めることも必要。
- ②身分証：調査やインタビューをするとき、身分が分かるようにすることが重要。
- ③ネットワーク化：それぞれの項目で活動されている人や組織とネットワークを広げること、情報収集がしやすくなるし、詳しい情報が手に入る。
- ④参考情報範囲を広げる：現在、教科書と堺市HPの範囲内で情報を取りまとめることが指定されているが、今後、例えば公的なHPなどや資料からもOKとする範囲をひろげること、より詳しい記述が可能となる。
- ⑤作成レベルの保証するシステムづくり：作成した人によってレベルがちまちまにならないために、レベルを担保するための研修や編集会議などシステムづくりが必要。
- ⑥情報の構造化：小1～中3と幅広い年齢層に対して、同じ情報では難しすぎたり物足り

なかつたりするため、情報の表示のしかたを構造化し、**詳細レベル**や**学年レベル**等の導入により詳しく表示できるようにする。

⑦**テーマにより学年レベルを合わせる**：テーマによっては対象学年が変わるものがあるため、例えばハーベストの丘のように低学年が遠足などで行くところは低学年にレベルを合わせた表現とし、「へのまつ」のように高学年で扱うものは高学年にあわせたレベルの表現とすることも必要。

<受講生の活動>



## 2. 修了者に対する資格認定について

「子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座」の修了者に対して、子ども堺学・キャリア教育サポーターの資格認定を行った。資格認定者は以下の通り。

### ■受講生及び修了認定者について

受講者数	修了認定者数
15人	15人

資格認定に対する意味づけについて受講生に意見を聞いたところ、①自分に対する動機づけ、②身分が分かることで説明しやすい、肩書、に意見が集約された。

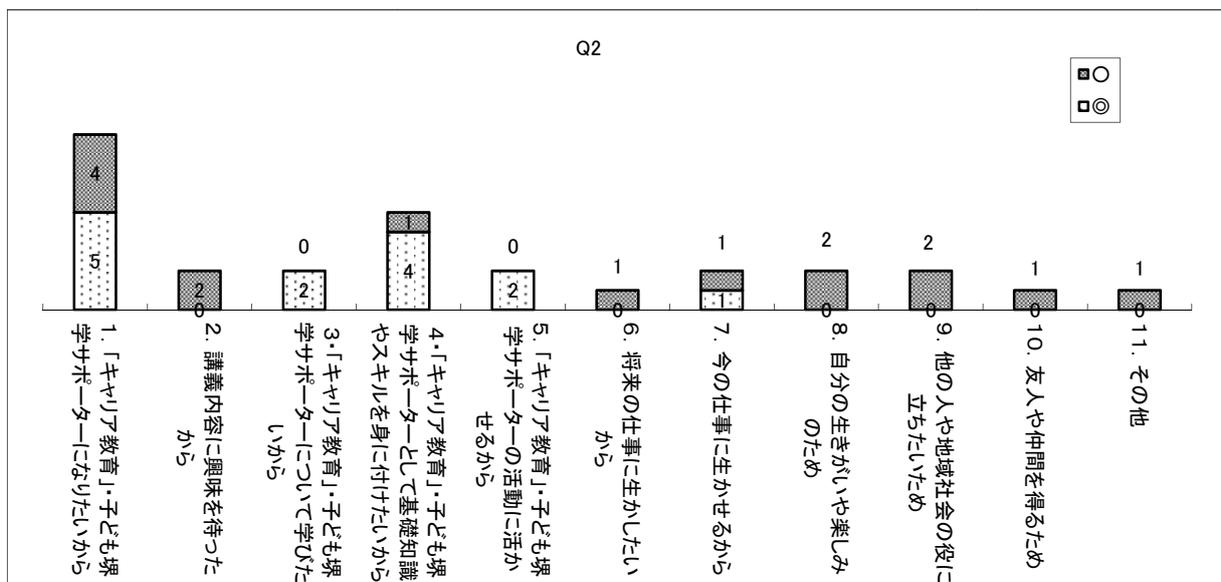
### 3. 受講生振り返り及び受講後アンケート結果について

#### (1) 受講後アンケートの結果

受講生に対して、本養成講座の受講後にアンケート調査を実施した。受講生の受講後アンケート結果は以下の通りである。(アンケートは26～27ページ参照。)

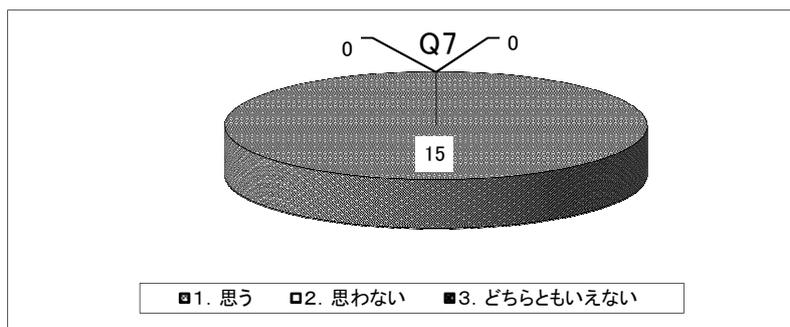
Q2 あなたの受講動機は？（一番該当するものに◎、該当するものに○をつけてください）

	◎	○		◎	○
1. 「キャリア教育」・子ども塚学サポーターになりたいから	5	4	6. 将来の仕事に生かしたいから	0	1
2. 講義内容に興味を待ったから	0	2	7. 今の仕事に生かせるから	1	1
3. 「キャリア教育」・子ども塚学サポーターについて学びたいから	2	0	8. 自分の生きがいや楽しみのため	0	2
4. 「キャリア教育」・子ども塚学サポーターとして基礎知識やスキルを身に付けたいから	4	1	9. 他の人や地域社会の役に立ちたいため	0	2
5. 「キャリア教育」・子ども塚学サポーターの活動に活かせるから	2	0	10. 友人や仲間を得るため	0	1
			11. その他	0	1



Q7 あなたは、この目的を理解し、今後の活動に生かそうと思いますか？

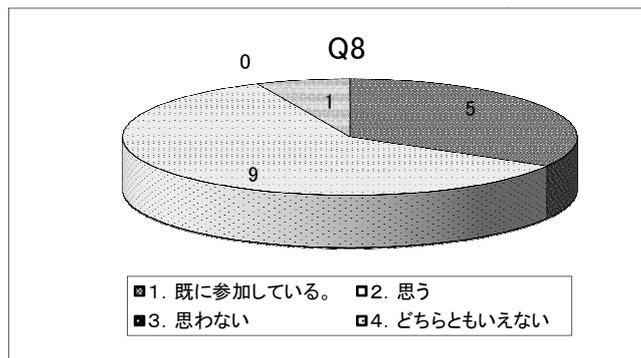
1. 思う	15
2. 思わない	0
3. どちらともいえない	0



Q 8 現在、自治体では、市民の方々が積極的に、地域の活動に参加をしていただけることを求めています。今後、地域の活動等に参加したいと思っていますか？

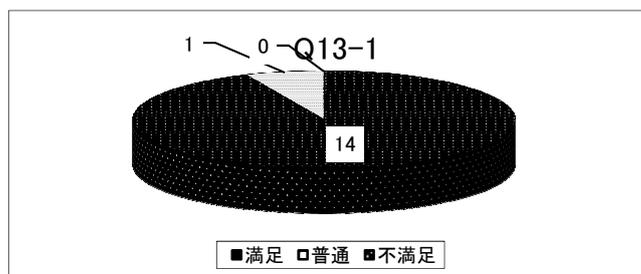
1. 既に参加している。	5
2. 思う	9
3. 思わない	0
4. どちらともいえない	1

北区ウォーキング推進委員会、  
IT金岡、観光ボランティア、陵南クラブ  
各種学びの会、図書館サポーター、  
青少年育成の自然教育、  
環境教育Big-アイのサポータ会員、  
エコ大サポータ会員、小学校の芝育成、  
自治会長、老人会幹事、各種Gr活動



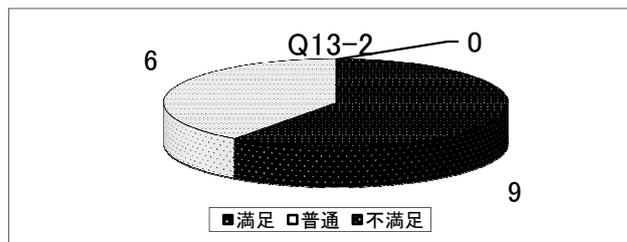
Q 1 3 受講してみていかがでしたか？

	計
満足	14
普通	1
不満足	0



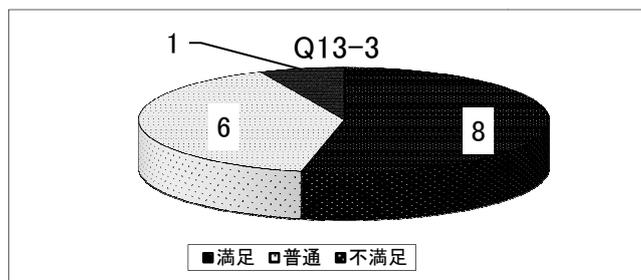
2. 講師や受講者との人間関係は

	計
満足	9
普通	6
不満足	0



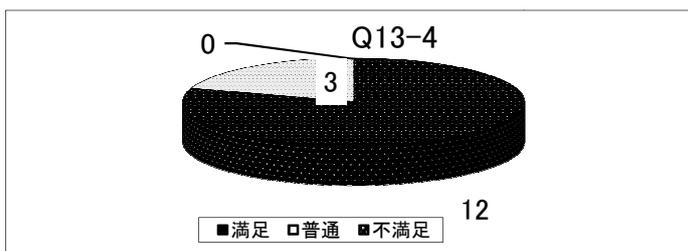
3. 職員のサービスは

	計
満足	8
普通	6
不満足	1



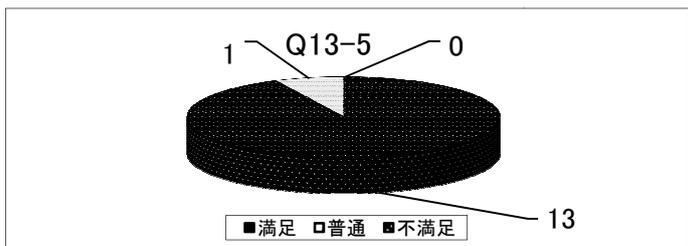
#### 4. 施設・設備や雰囲気は

	計
満足	12
普通	3
不満足	0



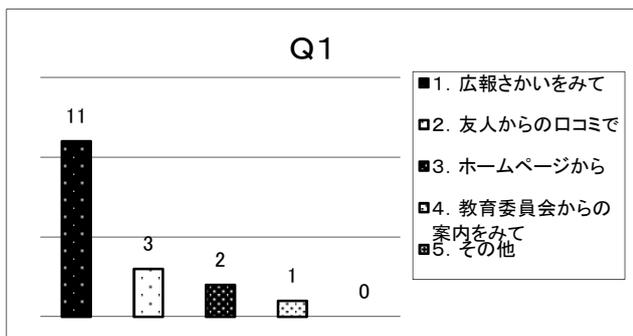
#### 5. 全体として

	計
満足	13
普通	1
不満足	0



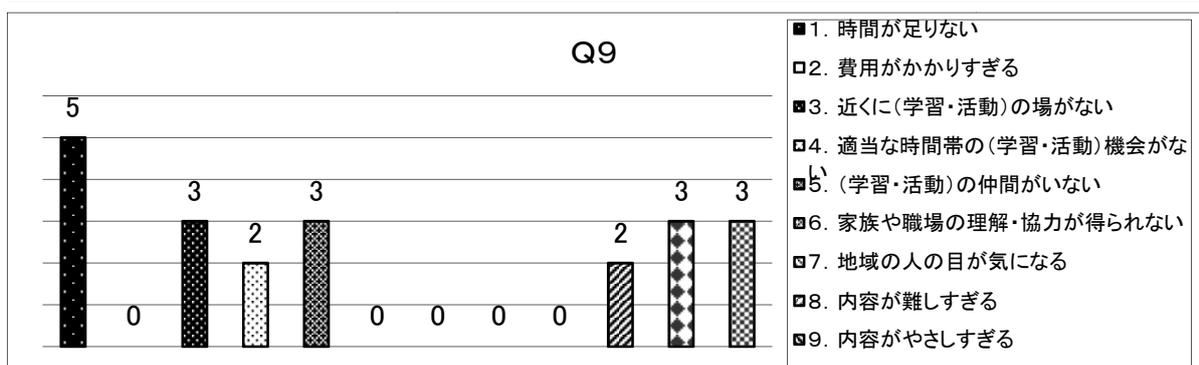
#### Q1 「養成講座」のことは、どのようにして知りましたか？（複数回答可）

1. 広報さかいをみて	11
2. 友人からの口コミで	3
3. ホームページから	2
4. 教育委員会からの案内をみて	1
5. その他	0



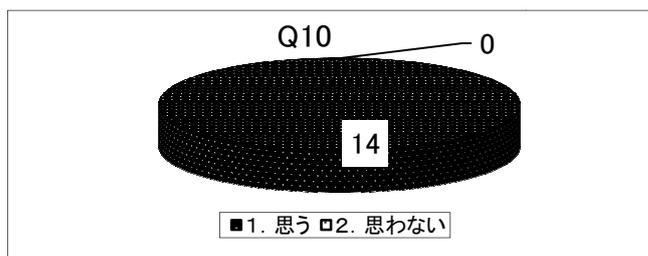
#### Q9 あなたが現在、活動や学習を進めるうえで、支障になることはどのようなことですか？

1. 時間が足りない	5	7. 地域の人のが気になる	0
2. 費用がかかりすぎる	0	8. 内容が難しすぎる	0
3. 近くに(学習・活動)の場がない	3	9. 内容がやさしすぎる	0
4. 適切な時間帯の(学習・活動)機会がない	2	10. 適切な講師・指導者がいない	2
5. (学習・活動)の仲間がいない	3	11. (学習・活動)に関する情報が得られない	3
6. 家族や職場の理解・協力が得られない	0	12. その他	3



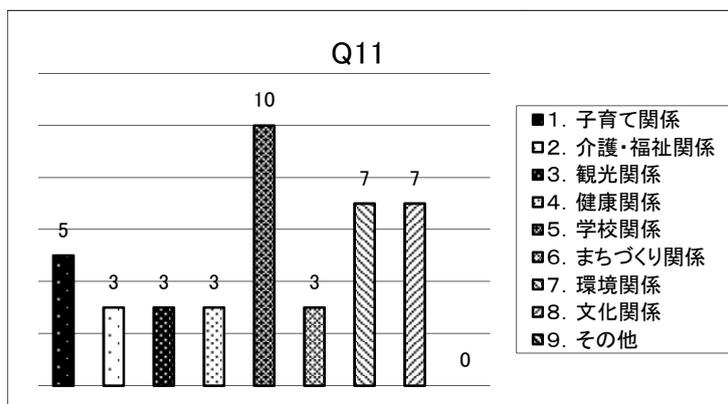
Q10 あなたは、今後も継続して何らかの活動や学習をしたいと思いますか？

	計
1. 思う	14
2. 思わない	0



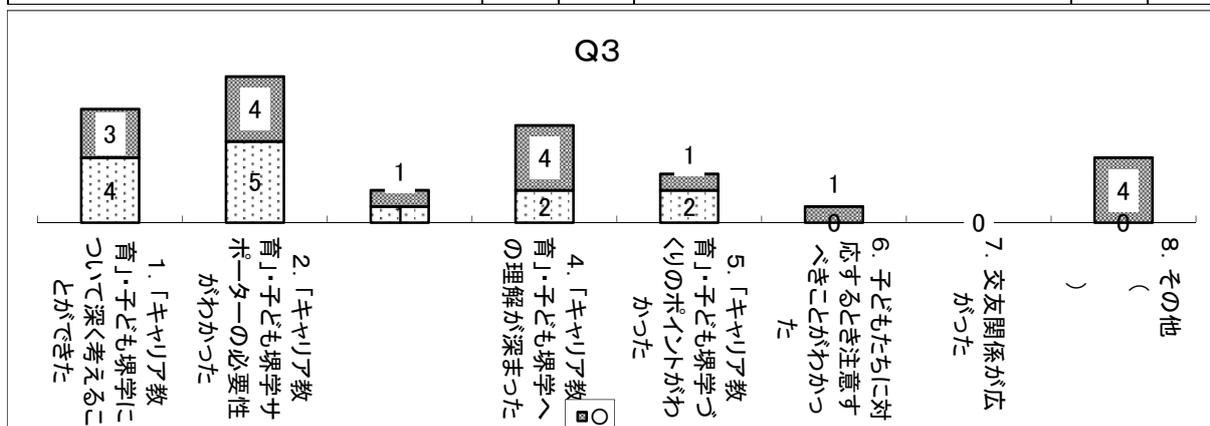
Q11 その際、特にどのような分野について活動や学習をしたいと思いますか？（複数回答可）

1. 子育て関係	5
2. 介護・福祉関係	3
3. 観光関係	3
4. 健康関係	3
5. 学校関係	10
6. まちづくり関係	3
7. 環境関係	7
8. 文化関係	7
9. その他	0



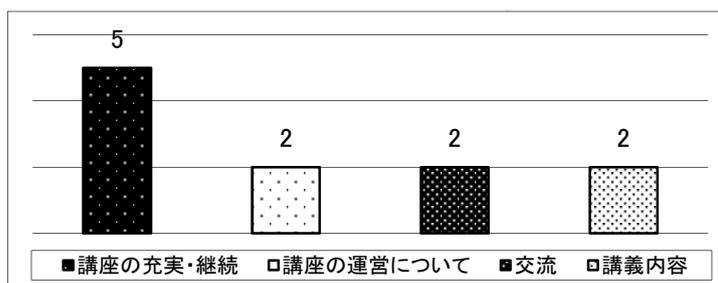
Q3 受講してみて良かったことは？（一番該当するものに◎、該当するものに○をつけてください）

	◎	○		◎	○
1. 「キャリア教育」・子ども堺学について深く考えることができた	4	3	5. 「キャリア教育」・子ども堺学づくりのポイントがわかった	2	1
2. 「キャリア教育」・子ども堺学サポーターの必要性がわかった	5	4	6. 子どもたちに対応するとき注意すべきことがわかった	0	1
3. 「キャリア教育」・子ども堺学サポーターとして必要な知識やスキルがわかった	1	1	7. 交友関係が広がった	0	0
4. 「キャリア教育」・子ども堺学への理解が深まった	2	4	8. その他 ( )	0	4



Q 4 今後のための改善点（自由記述を類型化して集計）

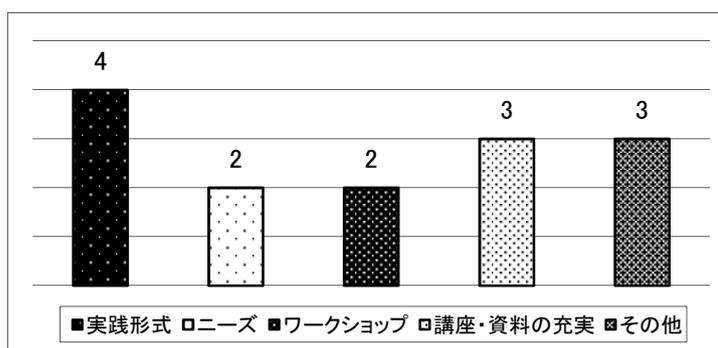
1	講座の充実・継続	5
2	講座の運営について	2
3	交流	2
4	講義内容	2



Q 5 今後の研修に望むこと（自由記述を類型化して集計）

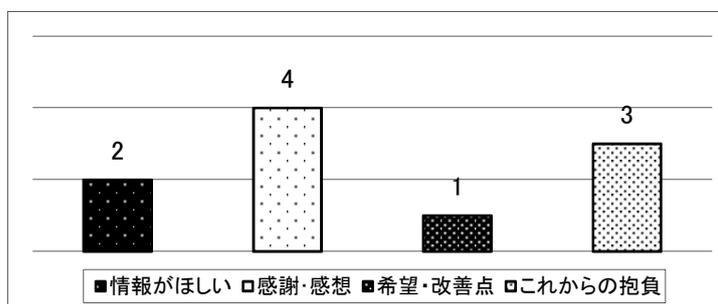
1	実践形式	4
2	ニーズ	2
3	ワークショップ	2
4	講座・資料の充実	3
5	その他	3

第2期生の学習の場にも役立ちたい



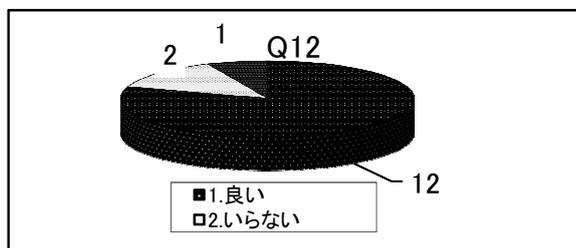
Q15 講座に対する要望や感想

1	情報がほしい	2
2	感謝・感想	4
3	希望・改善点	1
4	これからの抱負	3



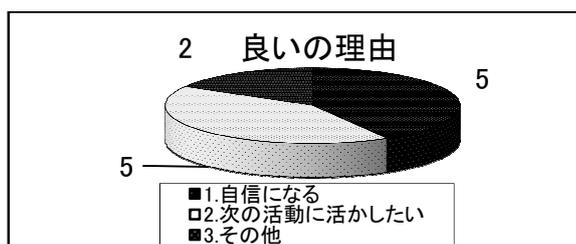
Q12 本講座は資格認定を行います。認定があったほうが良いですか？

1.良い	12
2.いない	2
3.どちらでもよい	1



良い の理由

1.自信になる	5
2.次の活動に活かしたい	5
3.その他	2



氏名	
----	--

Q1 「養成講座」のことは、どのようにして知りましたか？（複数回答可）

1. 広報さかいをみて
2. 友人からの口コミで
3. ホームページから
4. 教育委員会からの案内をみて
5. その他（ ）

Q2 あなたの受講動機は？（一番該当するものに◎、該当するものに○をつけてください）

1. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターになりたいから
2. 講義内容に興味を待ったから
3. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターについて学びたいから
4. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターとして基礎知識やスキルを身に付けたいから
5. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターの活動に活かせるから
6. 将来の仕事に生かしたいから
7. 今の仕事に活かせるから
8. 自分の生きがいや楽しみのため
9. 他の人や地域社会の役に立ちたいため
10. 友人や仲間を得るため
11. その他（ ）

Q3 受講してみて良かったことは？（一番該当するものに◎、該当するものに○をつけてください）

1. 「子ども堺学」やキャリア教育について深く考えることができた
2. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターの必要性がわかった
3. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターとして必要な知識やスキルがわかった
4. 「子ども堺学」やキャリア教育への理解が深まった
5. 「子ども堺学」やキャリア教育のポイントがわかった
6. 子どもたちに対応するとき注意すべきことがわかった
7. 交友関係が広がった
8. 子どもたちの学びに市民として役立つことがあることがわかった
8. その他（ ）

Q4 今後のために改善する点があれば教えてください。

--

Q5 今後、「子ども堺学」・キャリア教育サポーターの研修があった場合に研修に望むことは？

--

Q6 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターとして学校で活動を行うにあたり、今後、利用したいものがあれば該当するものに○をつけてください。（複数回答可）

1. 知識やスキルアップのための研修
2. 「子ども堺学」やキャリア教育に関する情報
3. 情報交流の場
4. 実践した成果の発表の場
5. 実践事例の見学
6. その他（ ）

本講座の目的には、地域に興味・関心を持ち、地域が抱えるさまざまな課題に積極的に取り組み、解決に向けて活動する人材を育成することがあります。

Q7 あなたは、この目的を理解し、今後の活動に生かそうと思いますか？

1. 思う
2. 思わない
3. どちらともいえない

Q 8 現在、自治体では、市民の方々が積極的に、地域の活動に参加をしていただけることを求めています。今後、地域の活動等に参加したいと思っておりますか？

1. 既に参加している。具体的内容をお書き下さい。  
( )  
2. 思う      3. 思わない      4. どちらともいえない

Q 9 あなたが現在、活動や学習を進めるうえで、支障になることはどのようなことですか？  
番号に○をつけるほか、(学習・活動)についても○をつけてください。(複数回答可)

1. 時間が足りない      2. 費用がかかりすぎる  
3. 近くに(学習・活動)の場がない      4. 適当な時間帯の(学習・活動)機会がない  
5. (学習・活動)の仲間がいない      6. 家族や職場の理解・協力が得られない  
7. 地域の人目が気になる      8. 内容が難しすぎる  
9. 内容がやさしすぎる      10. 適切な講師・指導者がいない  
11. (学習・活動)に関する情報が得られない  
12. その他 ( )

Q 10 あなたは、今後も継続して何らかの活動や学習をしたいと思えますか？

1. 思う (Q 11へ)      2. 思わない

Q 11 その際、特にどのような分野について活動や学習をしたいと思えますか？(複数回答可)

1. 子育て関係      2. 介護・福祉関係      3. 観光関係  
4. 健康関係      5. 学校関係      6. まちづくり関係  
7. 環境関係      8. 文化関係      9. その他 ( )

Q 12 本講座は資格認定を行います。認定があったほうが良いですか？

1. 良い  
理由      1. 自信になる      2. 次の活動に活かしたい  
            3. その他 ( )  
2. いない      3. どちらでもよい

Q 13 受講してみていかがでしたか？

1. 講義の内容は・・・ 1. 満足 2. 普通 3. 不満足  
2. 講師や受講者との人間関係は・・・ 1. 満足 2. 普通 3. 不満足  
3. 職員のサービスは・・・ 1. 満足 2. 普通 3. 不満足  
4. 施設・設備や雰囲気は・・・ 1. 満足 2. 普通 3. 不満足  
5. 全体として・・・ 1. 満足 2. 普通 3. 不満足

Q 14 子ども堺学サポーターの登録について

今後、子ども堺学をはじめ学校支援に関してご協力いただきたい場合に、お声掛けさせていただくことがあるかと思えます。お声掛けさせていただける方は、登録に○をお願いします。      登録

Q 15 講座に対するご要望や感想など、なんでも結構です。お気づきの点がございましたらご記入ください。

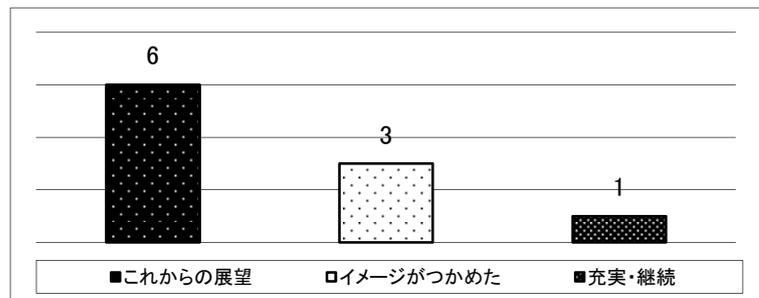
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

## (2) 振り返りアンケートの結果

受講生に対して、本養成講座、課題実習、ブラッシュアップ講座の全課程修了後に、振り返りアンケート調査を実施した。アンケートはすべて自由記述とした。記述内容を類型化して集計した結果は以下の通りである。(アンケートは31ページ参照。)

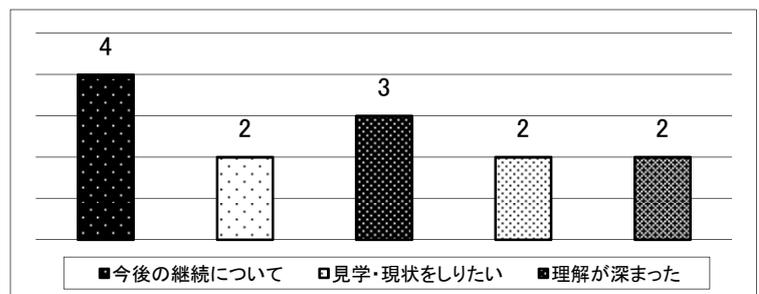
### Q1 受講した感想

1	これからの展望	6
2	イメージがつかめた	3
3	充実・継続	1



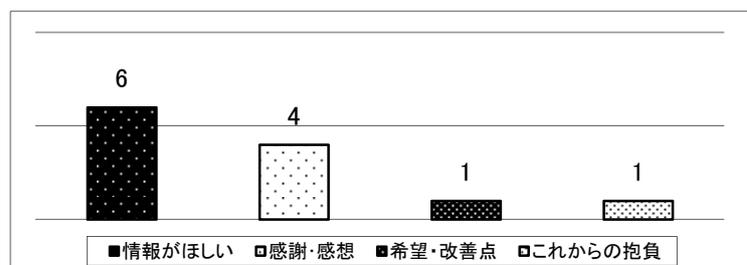
### Q2 スキルアップ研修について

1	今後の継続について	4
2	見学・現状をしりたい	2
3	理解が深まった	3
4	交流・意見交換	2
5	その他	2



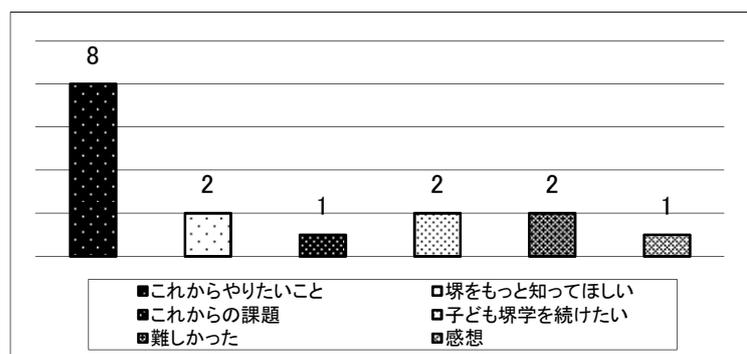
### Q3 情報収集について

1	情報がほしい	6
2	感謝・感想	4
3	希望・改善点	1
4	これからの抱負	1



### Q4 将来の期待と展望について

1	これからやりたいこと (子ども塚学関連)	8
2	塚をもっと知ってほしい	2
3	これからの課題	1
4	子ども塚学を続けたい	2
5	難しかった	2
6	感想	1



## ◆振り返りアンケート自由記述

### Q1 養成講座について

- 堺市に住んでいる市民として子どもたちに自信や地元へのほこりをもってもらい、世界（社会）に出て行くためのお手伝いが少しでもできるのではないかと、思いました。
- 最後まで受講してやっとぼんやりと見えてきた感じです。サポーターとしてどんな事が出来るのかは、まだつかめていない感じ。
- 「子ども堺学」の全講座を修了して、ようやく、子ども堺学とは、どういったものかを、イメージし、理解することが、出来たと思う。
- もっともっと、講座をふやしてほしかったぐらい、楽しかったです。開催した方も受講した方も初めてのことであり、手さぐりの要素がたぶんになったと感じています。1 期生としてこれで解散するのではなくフォローアップの研修も続けて頂きたいと思っています。
- ためになりました。子どもの未来の為に頑張りたい。
- 会社勤めを終え 15 年、当初は不安一杯でした。教育現場の実態と改善・向上に向けた講義をお聞きし、今回の開講講座の趣旨が理解できた。私は、教育とは長時間にわたって国づくりの国民を培っていくものと思っています。今回の受講はその長期的なスパンの一コマとしてお役に立てればと考えるようになりました。
- 「いきいき市民大学の専門講座の「地域協働教育」講座から子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座の受講という流れで、学校や子どもの教育について多少は理解出来たと思います。
- 「0」の知識分野でしたが、少しずつ、講義を終えるにつれ、「責任」を感じてきます。
- 新しく経験の無い分野に参加できて、良かったと思います。何か役立つ事ができれば幸いです。
- 子ども堺学、新事業に携わる事が出来てうれしく思います。まだ、はっきりと形にはなっていないところが魅力的で、第 1 期生の私達の意見が重視される事もわかりました。今から、先生方と一緒に作り上げていくプロジェクト、色々な視点から、考え、協力していける事を期待しております。

### Q2 スキルアップ研修について

- これから先してゆきたい事すべき事が少しずつ形になっているように思います。いろんな世代で意見をまとめるのは大変ですが、何かしたい気持ちは同じと思うので、少しずつすりあわせていけたらよいと思いました。
- うちにも小 4 の娘と中 1 の息子がいますので、読みのチェックなどがありましたら、いつでも協力させていただきます。
- 今後の課題あり
- 今後の進め方がはっきりした
- 「ハーベストの丘」の修正点を指摘され、勉強になりました。イラストも入れてよかったのですね。マップも、「ハーベストの丘」に入場してもらっていましたが、貼ってもいいとは気がつきませんでした。QA を差し替えても、いいでしょうか？
- 他の人の話を聞いて、小学生にかかわっていないと児童向けに記入は、難しいのだと思いました。
- 人、夫々にやり方や考え方があったナァーと感じました。共有化→分析→編集へと展開。
- 全員参加型の学校見学
- 人生の先輩から多くを学びました。
- 宿題に取り組んだ感想を各人が思い思いに述べ合った事は良い事で、今後、改善され、より良い資料が出されるものと思う。今後も機会あるごとに今回のようなフリートーク形式で意見を出し合いよくしていければと思います。
- 課題についての講評～自分の提出分は、難しいレポート内容と感じました。
- もっと、現場で現状を知りたいと思います。
- 想像を超えた、大きなプロジェクトに足を踏み入れたなあと感じます。何か、一翼を担えたら、うれしい限りです。
- だんだんと方向性が見えて来た感じがします。各メンバーの提出内容はぜひ見てみたい。
- さらに今後の活動について話し合え、よかったと思う。

### Q3 情報収集について

- 自分自身の時間があまりなく情報収集が足りなかったと思う。もっといろんなテーマで情報収集してゆきたい。
- 教科書にのっている内容のシンプルさにびっくり。もう少し興味をひく様な書き方であればいいのに…と思いました。情報収集は、あまりうまく出来ませんでした。すみません。
- 相手方に「子ども堺学」の HP に載せる旨の説明をする際に未だ子ども堺学の HP が up されていなかったため、困った。

- 出店先を明確に。語尾ぐらいは、変えても OK という暗いでは、小学生向けにいただいた表現にしにくかった。
- 調べたい項目や内容がいっぱいあり、悩みました。今後も、泉北ニュータウンに住んでいるので、もっといろいろ調べてまとめたいです。「ハーベストの丘」は、2 枚だけでなく、もっと書きたかったです。「与謝野晶子」ももっと枚数をふやしたかったです。4 年の国語に出てきたので、子どもならこんな質問をするかなと想像しながらまとめました。
- 自分自身の為にも大変勉強になりました。子ども目線での DB 作成は貴重な楽しい体験でした。
- 画一的な内容を求められていると、かんちがいがあった。
- 多少の不安がありましたが、楽しく収集できました。次回のテーマ（題材）は何にしようかな？と思っています。
- 「子ども」の求めているテーマとは、何かが十分に理解出来ない。
- 今後の課題の取組のスケジュール化は、ぜひ参加したいと思います。与えられた課題も自由課題も、共に、資料を集め、たどめる事は、とても新鮮で、小学生対象の文へと変換する難しさを実感したものの、やりがいを感じました。自分自身が、もと知りたい事が増え、また、このような機会に巡り会えたらいいなと思います。
- 堺市ホームページから収集を行った。他にも色々検索できて、広がる様に思います。個別テーマに関しては、今までの活動を集約するのにどうすべきか時間がかかった。
- 金岡神社宮司さんにお話をきき、とても親切に教えていただきました。今後、プロジェクトとして身分の判るものがあれば日常的にいつも調べる事が出来るのにと思いました。

#### Q4 将来の期待と展望について

- 堺学として、体験サポーターなどを（話にあった博物館の体験の出張体験など）するのもおもしろいと思いました。
- 堺出身の子どもなら気軽にお茶を入れられる「お茶検定」をぜひ作ってほしい。女の子はもちろん、抹茶をたられる男子ってすごくカッコイイと思います。
- 他の市と比べてもいっぱいアピール出来る事のある堺をもっと子どもたちに知ってほしいです。（線香、自転車、染めもの…etc）
- 線香づくりの体験…子どもたちは喜ぶますよ（色ねん土の様な線香があります）
- HP の充実
- 堺学の授業の見学、授業をつくりあげるサポート
- 3, 4 年生に、出前授業に行って、郷土「泉北の歴史」を伝えたり、調べたりする手伝いができたらと思います。（現在、学校図書館サポーターをしていて、泉北の歴史等は廊下に掲示したり、担任に資料を提供したりしています。）
- 学校ボランティアとして現在かわり合っている小学校で「総合や生活」の中で作成した課題テーマ一覧を教材として子ども堺学の方が持てれば幸いです。学校と地域のつながりを深めるのに大学の教員でもない、学校の先生でもない、PTA でも OB でもない、我々の様な普通のおっちゃん平凡なオバサンにできることもあると考えています。
- ボランティアコーディネーター
- 今回（12/17）の打ち合わせで岡崎先生が（案）として言っておられたように、今回のプロジェクトにくつつく実動部隊として活動出来れば good です。また、来年度も 2 期生的な形でメンバーの追加も、より充実した活動になると思います。
- 「子ども」の求めているテーマとは、何かが十分に理解出来ない。
- インターネットに色々な情報があり、選択するテーマと重複があります。「子ども堺学」として、‘何のテーマ’ ‘どれくらいの深さ’ 等々判り難い状態でした。
- 情報収集のために調べることは、自分の勉強になりました。
- 情報収集ももちろんですが、今、大人にも欠けている人対人のマナーやルールや、思いやりを、堺の子どもたちに浸透するような活動に関われたらと思います。
- いろいろな情報を数多く集められたらと思います。またその為に自分で、足で動き収集勉強ができたらと思います。
- 皆と沢山話し合いながら、幅を広げてサポートしていきたいです。上記でも書きましたが、日常的に調べる事が出来るように、その都度、課題を出せるようなシステムが出来ればと思いました。

平成 24 年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究  
「子ども塚学」・キャリア教育サポーター養成および情報収集を通しての全体振り返り

氏名：

1. 養成講座について

養成講座を受講した感想などを自由にお書きください。

2. スキルアップ研修について

スキルアップ研修を受講した感想などを自由にお書きください。

3. 情報収集について

情報収集を行った感想などを自由にお書きください。

4. 将来の期待と展望について

「子ども塚学」・キャリア教育サポーターとして、どんな活動がしたいですか？  
今後のやりたいこと、めざすものなど、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

#### 4. 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座募集・認定・管理システム構築およびホームページの作成

本養成講座の募集及び養成・認定された人たちを管理する、Web用「人材養成講座募集・認定・管理システム」を構築した。本システムが構築されることで、今後本人材育成モデル事業を他分野に広げていくための基盤整備の強化を図ることができた。

また、本養成講座の募集及び、子ども堺学・キャリア教育サポーターの継続した資質向上と事業推進を図るために、サポーターが情報収集できるようホームページを作成し、子ども堺学・キャリア教育サポーターへのスキルアップ研修や、情報提供等を行った。

一方で、本ホームページに、上述の「人材養成講座募集・認定・管理システム」を組み込むことで、募集及び認定者の管理を円滑に行うことができた。

## 第3章 成果について

### 1. 大学と教育委員会との協働による新しい公共の担い手となる人材育成モデルの構築

生涯学習による学習成果を活動に活かす人材の育成及びその成果を活かす仕組みづくりとして、大学と自治体が連携し、「養成講座」→「認定・登録・ネットワーク化」→「認定者による実践の場の提供」→「研修」という一連のモデル化を提示することができた（図2）。

このモデル化により、学校支援員だけでなく、今後は、例えば子育て支援員、ICT活用支援員、環境支援員、観光ボランティア等、様々な分野の地域課題の解決に貢献する人材育成モデル事業のひな形を提示することができる。また、今後、他の自治体でも通用できる形を検討する。（図4参照）

### 2. サポーター研修の受講生から見る新しい公共担い手像の抽出

今回、新しい公共の担い手として募集したサポーター養成講座について、従来型の学びを中心とした生涯学習に対して、学びを実践に活かす新しい公共型生涯学習の場合、受講生像が従来型とどのような違いがあるのかを探った。違いが分かることで、新しい公共の担い手像が浮かび上がってくることを期待した。

比較は、本講座のアンケートの結果と、南コンソが従来から行ってきた生涯学習講座「南大阪地域講座」等を比較して考察した。また、南コンソでは、今年度、新しい公共の担い手育成として学校図書館サポーター養成講座を別途実施していたことから、それらのデータも併せて比較対象とした。比較対象のタイプ分けは以下の通りである。

種 類	講座のタイプ
子ども堺学サポーター養成講座の受講生の結果	①新しい公共型
学校図書館サポーター養成講座（春期）の受講生の結果	
学校図書館サポーター養成講座（夏期）の受講生の結果	
平成21年度～平成22年度に実施した自治体連携型生涯学習「実践力育成講座」の受講生の結果（文部科学省戦略的大学連携支援事業）	②混合型 （学びを実践に活かすための講座）
平成15年度～平成16年度に実施した南大阪地域講座の受講生の結果（南大阪地域大学コンソーシアム事業）	③従来型 （教養講座）

■アンケート結果（第2章1（3）、2（1）（2）を参照。）

**性別** 女性の比率 ①>②>③

- ・従来型が圧倒的に男性の割合が高い（約80%）のに比べ、新しい公共型は女性の割合が極めて高い
- 子ども堺学サポーターは、堺を知ってほしいという観点からか男性の参加も33%と多かったが、学校図書館サポーターは98%が女性であった。仕事の種類によって男女の比率に特徴がみられることが分かる。しかし、従来型と比べると女性の比率が高いことがわかる。

**年齢構成** 年齢 ①（40～44）（50～55）<②（60～64）<③（65～70）

- ・従来型に比べ、新しい公共型は15歳くらい平均年齢が若い。
- ・女性の労働力率で日本の特徴と言われる「M字カーブ」と逆のパターン
- 子ども堺学サポーターは、男女によって年齢構成に違いがみられた。男性は60歳代が中心と、従来型に近いものの、女性に限ると、40代が圧倒的に多い。これは、学校図書館サポーターでも同様の結果が出ている。従来、生涯学習というと、高齢者、男性という図式が長く続いていたが、今回、新しい公共の担い手育成という講座では、40代女性が中心という、従来の生涯学習と全く異なった年齢構成を示していたのが特徴であった。

第2章1（3）の受講生の属性の結果の中で〔表2〕が示す形は、女性の労働力率で日本の特徴と言われる「M字カーブ」と完全に逆のパターンを示している。M字型曲線とは1960年代後半からみられるようになった日本女性の働き方の特徴で、ノルウェー、スウェーデン、アメリカは逆U字型を示すが、日本では、結婚・出産・育児の期間は仕事を辞め、子育てが終了した時点で再就職するという女性のライフスタイルを示していると言われている。

新しい公共の担い手養成講座は、長く言われてきたM字カーブのへこんだ部分にいる「子育て中であるが乳幼児期を過ぎた主婦層」が受講している可能性が高い。受講生の多くは、ただ学ぶだけでなく、学んだことを社会に活かしたい、社会貢献したい、と考えている人が多いことが受講生との意見交換で分かっている。M字カーブは、M字のボトム的女性たちにとって、子育てが少し余裕が出たとき活動したいが活動の場がないことを示しているのではないかと考えざるを得ない結果となった。

活動の場として、「子ども堺学」にしても学校図書館にしても教育分野の新しい公共であったことから、女性が多いことは、教育分野であることも影響していることも考えられる。今後、分野の多様化により検討が進むことを期待したい。

受講動機 活かしたい ①>②

経験なし	経験あり	混合型
子ども堺学サポーター、学校図書館サポーターになりたい 興味あり、知識がほしい 人の役に立ちたい	知識が欲しい 知りたい、活かしたい 人の役に立ちたい	幅広い教養 友達がほしい

活動に活かす

- ・ 大多数が活動に活かしたいと考えている

地域の活動に参加を希望 すでに参加している 経験なし<経験あり

- ・ 大多数が地域の活動に参加したいと考えている
- ・ すでに参加している活動は、学校関係、子育て関係、青少年関係、等

受講した感想

- ・ 概ね満足

人間関係

- ・ 概ね満足しているが、触れ合う時間が少なかったと考える人が多かった

何で知った?

- ・ 経験なし → 広報さかい
- ・ 経験あり → 案内、広報さかい

活動・受講する上での支障

- ・ キーワードは、時間、情報
- ・ 経験なし → ①時間、②時間帯
- ・ 経験あり → ①時間、②近くにない
- ・ いずれも「情報」の不足がある  
→ 従来、学習する場合の支障となることの多くは、適切な講座がなかったり、近くに学習の場がないなど、機会の問題が大きかった。しかし、新しい公共型の場合、時間や情報が支障としてクローズアップされた。「時間」が多いのは、子育て中の主婦層の参加が多かったことが理由の1つである可能性がある。実際、講座終了後に、保育園等に子どもを迎えに向かう受講生も散見された。

今後も活動や学習を継続

- ・ 全員が希望しており、意欲の高さがうかがえる

#### 希望する分野

- ・ 今回の受講者（活動として） → ①学校、②子育て、③文化
- ・ 混合型（学習として） → ①語学、②健康、③歴史

#### ■アンケート結果からのみるサポーター研修の受講生から見る新しい公共担い手像

- ・ 従来型の生涯学習の受講者と比べ圧倒的に若い層、女性が参加  
これは、子ども堺学サポーターや図書館サポーターという教育分野の職種が影響している可能性が考えられる。
- ・ 活動への意欲が高い
- ・ 継続した活動を希望している
- ・ 新しい公共の担い手としての子ども堺学サポーターや図書館サポーターという目的が明確なためか、必要な知識・スキルを獲得したい人が多く、従来型の幅広い教養や人間関係を求めているのとの違いが明確
- ・ 子育て世代等若い人が多いためか、時間の制約を受けている人が多かった。今後、活動に参加してもらうとき、時間的な制約をどう解消するかが課題

今後、ここに見られる新しい公共担い手像を考慮した講座の在り方を検討していく必要がある。

### 3. 子ども堺学・キャリア教育サポーターの輩出

本養成講座を実施したことで、堺市教育委員会が新しく導入する「子ども堺学」について知り、理解する市民が多数輩出できたことが1番の収穫である。その理由は、「子ども堺学」は、地域の生きた教材を体験することを何よりも大切にしており、地域の教育資源を活用した教育の実現をめざしていることから、「子ども堺学」・キャリア教育を実践するために、学校、地域、企業、大学等の協力体制づくり及び意識の向上が必要不可欠であり、その環境づくりが課題となっているからである。

今後、本講座が発展し、受講する市民が増えることで、「子ども堺学」の充実を図り活性化させる知識やスキルをもったNPOや地域人材を多数輩出することが期待できる。

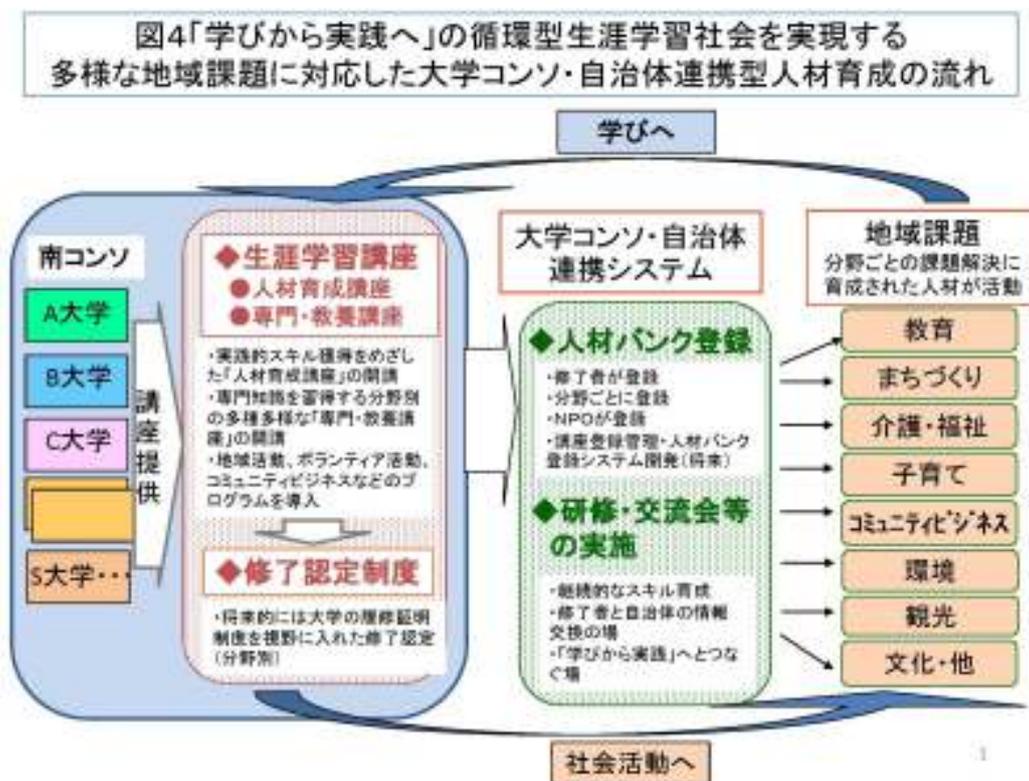
#### 4. 子ども堺学・キャリア教育サポーター情報サイトの構築による基盤整備の強化

本養成講座の募集及び養成・認定された人たちを管理する、Web用「人材養成講座募集・認定・管理システム」を構築した。本システムが構築されることで、今後本人材育成モデル事業を他分野に広げていくための基盤整備の強化を図ることができた。

本事業で提案している「学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する」仕組みは、図4で示している通り、他の地域課題を支援する新しい公共の担い手育成のモデル取組となっていることから、本事業で構築した「人材養成講座募集・認定・管理システム」は、他の地域課題を支援する人材育成の取組で活用する場合の基盤となる。

また、本養成講座の募集及び、子ども堺学・キャリア教育サポーターの継続した資質向上と事業推進を図るために、サポーターが情報収集できるようホームページを作成し、子ども堺学・キャリア教育サポーターへのスキルアップ研修や、情報提供等を行った。

一方で、本ホームページに、上述の「人材養成講座募集・認定・管理システム」を組み込むことで、募集及び認定者の管理を円滑に行うことができた。



## 第4章 新しい公共の担い手となる人材育成への提言

### 1. 新しい公共の担い手となる人材育成への提言

本事業を通じて、新しい公共の担い手となる人材の育成について、分かったことがある。以下では、本事業で実現できた点を通して、今後、新しい公共の担い手となる人材を育成する上でポイントとなる点について述べることとする。

#### (1) サポーター養成講座による人材の集約化が実現

市民協働の取組を推進する時に課題の1つとして挙げられるのが、どこにどんな人材がいるのかわからないため自治体が市民と協働での取組に入っていくことが難しいという点がある。今回講座を実施して、集まった受講生が資格認定され、データベース化されたことは、協働のパートナーが集約されたことに他ならない。

#### (2) 集約化された人材が新たなネットワークを構築し新たな活動につなげていく可能性

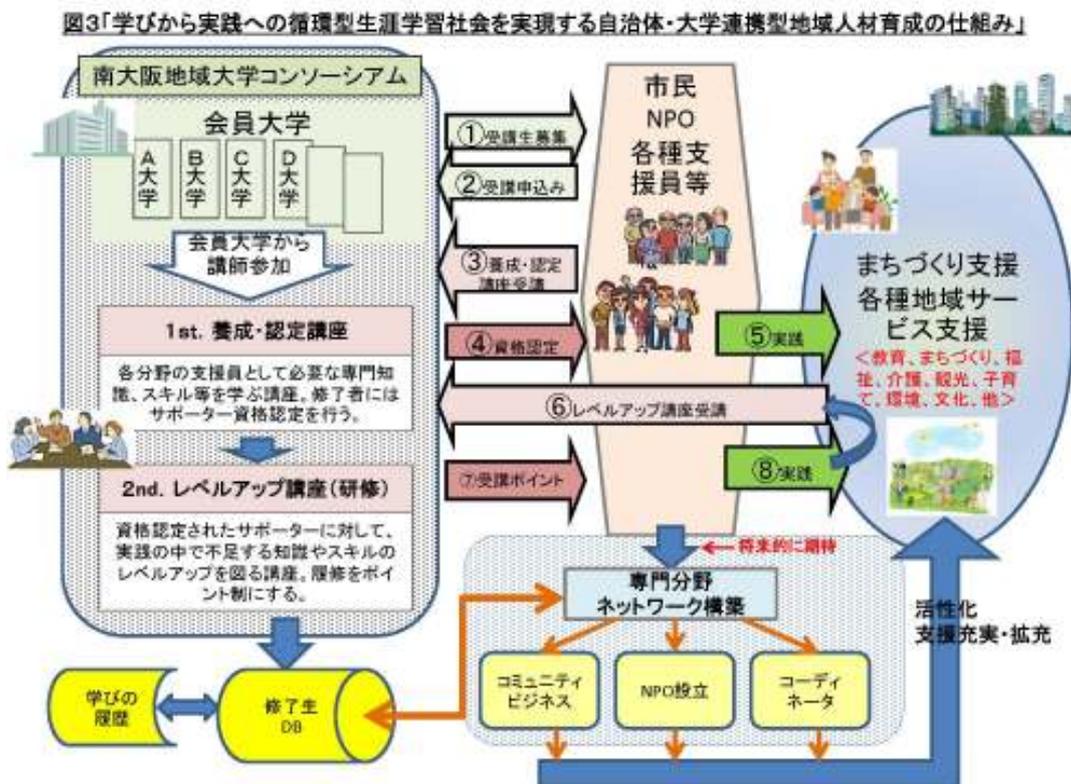
データベース化された資格認定者は、それまで個々に存在していた。講座で知り合い、データベースに登録することで、横のつながりが生まれる。点で存在していた個人が、線につながり、やがては、活動を通じて、また、講座を通じて面となっていく可能性が大きくなる。本講座及び資格認定は、同じ目的を共有した人たちがつながる機会を創出するという機能を果たすことになったことが分かる。

共通の目的でつながった個人は、やがて、NPOを設立したり、コミュニティビジネスを立ち上げたり、あるいは、その知識やスキルを活かして地域をつなぐコーディネーターとして活躍する可能性がある。実際、スキルアップ研修では、受講生から、活動を継続して行いたいとの希望が強く出されており、NPOの設立に強い興味を持たれていた。自分たちのまちは自分たちの手でつくっていきたい、あるいは関わっていきたいと考えている今回の受講生たちは、まさに、新しい公共の担い手として、横につながることで、新たな活動の場を広げていく可能性を秘めている集団であることが分かる。

#### (3) 資格認定が市民活動を後押しする

本講座の修了者に資格認定をおこなったが、受講生にとって資格を取得することは、①自分に対する動機づけであり、②身分が分かることで説明しやすい、肩書であることが分かった。この資格取得を通じて、資格が自信につながり、それを活かしたいと考える受講生が多いこと

も分かった。その結果、資格認定が、市民活動を後押しする機能をもつことが分かった。



## 2. 新しい公共の担い手にとっての資格認定の意味

資格認定は受講生にとって、どんな意味あいをもっており、どんな機能を果たすことになるのかについて、本事業を通して分かったことは以下である。

- (1) 資格認定は自分に対する動機づけ
- (2) 資格は身分を証明するものであり肩書となる
- (3) 資格認定により自信がつく

また、第3章「2. サポーター研修の受講生から見る新しい公共の担い手像」からわかるように、新しい公共の担い手育成研修に参加する人々は、従来型の生涯学習の受講生と比較すると、学んだことを活動につなげようとする意識を強く持っている人が多い。このことと、上記の資格認定に対する意味づけを交差させると、次のことが分かる。

新しい公共の担い手として希望する人は、学んだ知識を活動を通して社会に活かしたいと考える人たちであると言え、それらの人々にとって資格認定を受けることは、取得した資格が、自らの活動に対する動機づけの役割をもち、自らの活動を保証する肩書であることがわかる。

その結果得られた資格によって自信が付き、資格取得者を単なる知識を獲得しただけの生涯学習者にとどめることなく、資格が活動へと後押しする役割を果たすことが見て取れる。

循環型生涯学習社会の実現を目指す中で、資格認定は学びから活動へと後押しする役割を果たすと思われる。リタイアし、社会的な肩書を失った人たちにとって、資格は1つの自らの生き方を示すものになるのではないか。新しい公共の人材育成に資格制度が導入されることは一定の意味をもつものと思われる。今後に期待したい。

# 資料



資料1

子ども堺学について



## 9年間を見通した『子ども堺学』の 学習を通して、豊かな心を 育成します！

「子ども堺学」とは？

子どもたちが生きるまち「堺」を教材とした、  
知の探究をテーマとします。地域の資源を活用した学びの実現をめざし、子ども  
たちの学習した成果を蓄積し、「子ども地域学」としての体系化を図ります。

「子ども堺学」を通して、堺に愛着や誇りをもち、地域や国際社会に主体的に  
参画できる人づくりをめざします。

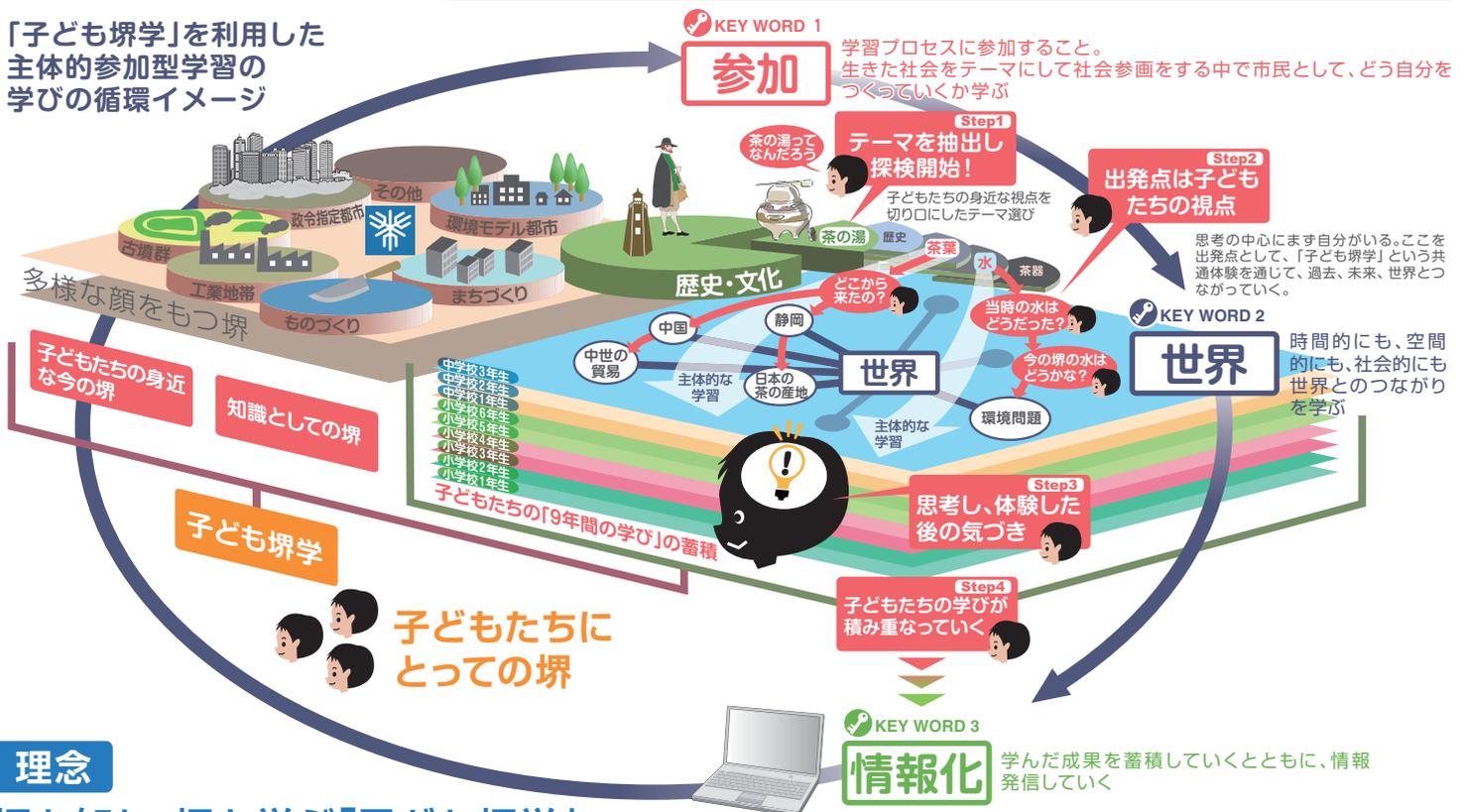
KEY WORD 1  
参加

KEY WORD 3  
情報化

KEY WORD 2  
世界

「子ども堺学」3つのKEY WORD

「子ども堺学」を利用した  
主体的参加型学習の  
学びの循環イメージ



### 理念

## 堺を知り、堺を学ぶ「子ども堺学」

堺の子どもが、「自立した市民」となるために、子どもたち自身が生活する地元に教材を求め、堺を知り、堺を学ぶ「子ども堺学」の学習の充実を図ります。

「子ども堺学」では、自分が育つ堺の歴史や伝統・文化・産業・人々の生活などについて学習することで、地域への愛着・誇りや参画意識を高めるとともに、世界とのつながりを感じ、多様な文化を尊重する心、新しい価値を創造する力を育みます。

文部科学省によって新たに示された学習指導要領には「持続可能な社会の構築」という言葉が重要なキーワードとして取り上げられています。「子ども堺学」においても「サステナビリティ（持続可能性）」の概念を取り入れ、「公正な社会」「生態系との共生」「地域文化との尊重」「住民自治」といった視点に立ち、地域や国際社会に主体的に参画できる人づくりをめざします。

### 目的

## 地域の教育資源を活用した教育の実現

「子ども堺学」では、地域の生きた教材を体験することを何よりも大切にします。そのために、子どもたちが身近なところに、興味・関心をもち、問題を発見し、自ら考え、友だちと協力しながら、解決に向けて取り組むことができるようなプログラムを作成し

ます。地域人材や地元企業等の協力を得ながら、ワークショップやフィールドワーク、調査研究を行い、学習成果を学校内外で発表（情報発信）する等、探究的な学習を通して、自己表現力やコミュニケーション力を育みます。

### 学習プログラム例



課題解決型プログラム

自転車企画

自転車企画を通して社会の課題を考え、解決していく。

協力 自転車関連企業



フィールド型プログラム

コメ作りから学ぶ

地域の農家の米作りを一部体験する中で、農家の生活や行事を学ぶ。

協力 地元農家



堺スタンダードプログラム

茶の湯体験

茶の湯体験学習や茶の湯の心の学びを通して、人との関わりや相手を大切に思う気持ちを学ぶ。

協力 茶の湯の先生



環境プログラム

環境モデル都市堺を知る

環境モデル都市堺の取り組みを学ぶ中で、環境の大切さや環境を守っていくためにできることを考える。

協力 環境関連企業

と び だ せ !



# 子ども堺学



「子ども堺学」では、子どもたちの学びの成果を集約し、情報発信するポータルサイトを立ち上げます。サイトを見れば堺のことをどんどん深く知ることができます。また、同時に、子どもたちの学びの成果をサイトにアップし、集約していきます。

## 使い方

課題を探っていくときは、リンクをたどっていきます。

「暮らしをしらべる」をクリック! 例

CLICK!

文化の中の「茶の湯」をクリック!

CLICK!

なるほど!

さあ、知の探究のスタートだ!!  
START!



カイ君 イズミちゃん  
DVD キャラクターが「子ども堺学」を楽しく教えます!

## 学習成果を登録しよう!

- 子どもたちの学習成果を登録し、蓄積された学習の成果を次の学びに活かします。
- 登録すると登録証が発行されます。

## ゆるキャラがホームページを楽しくガイド!

### 子ども堺学ホームページ専用キャラクター



- プロフィール (すべて堺に関するところで設定予定)
- キャラクターから「子ども堺学」につなげることができます。
- 楽しみながら学ぶサイトを実現します。
- そのために、カード、かるた、トランプなどの遊びを取り入れた学びの教材へも展開させます。

## 教員用ページも設置

- ログインが必要です。
- 教材をダウンロードすることができます。
- 地域の教育資源を得ることができます。

## 地域の皆様のご協力を!

- 子ども堺学は、堺を学びの教材としているため、地域と一体となった教育環境づくりを目指しています。皆様のご協力をお願いいたします!

## 資料2

### 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座ホームページ

文部科学省 平成24年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」採択事業

学びから実践への橋渡しを担う子どもを支援する文字・自治体連携型による新しい11月の担い手となる人材育成モデル構築をめざして  
～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～



#### 「子ども堺学」 キャリア教育 サポーター養成講座

[概要を見る](#)

#### 「子ども堺学」サポーター キャリア教育 スキルアップ研修

[概要を見る](#)

#### 受講申込はこちらから

#### 「子ども堺学」 キャリア教育 サポーター養成講座 受付は終了しました

[申込フォーム](#)

申込締切：平成24年11月7日（水）  
※定員に達し次第、受付を締切ります

**受講料 無料**

[よくある質問](#)

#### 「子ども堺学」とは

堺市では、子どもたちが堺に愛着と誇りを持ち、「それぞれの世界へはばたく“堺っ子”」としてふさわしいアイデンティティと自己実現のための「生きる力」をばぐくむことを目的として、平成23年度に「子ども堺学」が構築されました。子どもたちが生きるまち「堺」を教材とした、知の探求がテーマです。「子ども堺学」では、地域の生きた教材を体験する事を何よりも大切にし、そのために、子どもたちが身近なところに、興味・関心を持ち、問題を発見し、自ら考え、友だちと協力しながら、解決に向けて取り組む事ができることを目指しています。「子ども堺学」を通して、堺に愛着や誇りを持ち、地域や国際社会に主体的に参加できる人づくりを目指します。

#### なぜ、「子ども堺学」・キャリア教育サポーターが必要なのか？

この堺市の新しい試みである「子ども堺学」を柱にして小中一貫9年間のカリキュラムが平成23年度に策定され、平成24年度試行、平成25年度本格授業が予定されています。「子ども堺学」では、地域の生きた教材を体験することを重要視しています。そのため、地域にあるモノや人や環境や歴史などさまざまな資源が生きた教材になります。また、地域を教材としていることから、地域の子どもたちを地域一体となって育てていく環境づくりも大切です。そこで、「子ども堺学」の教育環境づくりにご協力いただける「子ども堺学」・キャリア教育サポーターを求めています。

[子ども堺学のページを見る](#)



Copyright © 南大阪地域大学コンソーシアム All Rights Reserved.



資料3

第1回、第2回協議会

資料



H24年度 文部科学省  
「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」  
学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新  
しい公共の担い手となる人材育成モデル構築をめざして  
～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～  
第1回協議会

日 時 平成24年8月24日(金) 10:00～12:00  
場 所 さかい新事業創造センター 2階会議室

＜次 第＞

議 事

1. ご挨拶

南大阪地域大学コンソーシアム 事務局次長 今木秀和(桃山学院大学副学長)  
文部科学省 生涯学習政策局生涯学習推進課生涯学習推進係長 船木茂人

2. 事業説明

- (1) 事業の全体概要説明
- (2) 「子ども堺学」及びキャリア教育の現状について
- (3) 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座募集について
- (4) 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座の開講について
- (5) アンケート調査について

3. 新しい公共の担い手となる人材育成モデルについて（意見交換）

- ・他地域との資格認定の互換制
- ・育成した人材の集約化をどう図るか

＜資料＞

- 資料1 申請書
- 資料2 教育支援人材認証協会（東京学芸大学）資料
- 資料3 事業概要

協議会委員名簿

文部科学省	生涯学習政策局 生涯学習推進課 生涯学習推進係長	船木 茂人
堺市教育委員会学校教育部	学校企画課 課長	松本 貴之
	学校企画課 総括指導主事	間地 洋介
堺市市長公室企画部	次長	三宅 貴
	主幹	坂本 泰宏
堺市市民人権局市民生活部	協働事業推進担当副理事	吉田 和彦
	副理事兼生涯学習課長	小山 和正
プール学院大学	国際文化学部 子ども教育学科 准教授	岡崎 裕
帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部 教授	岩崎 裕保
大阪大谷大学	人間社会学部人間社会学科 教授	中道 厚子
大阪府立大学	副学長 (南コンソ事務局長)	寺迫 正廣
桃山学院大学	副学長 (南コンソ事務局次長)	今木 秀和
大阪女子短期大学	人間健康学科主任・教授 (南コンソ南大阪地域講座委員会 委員長)	北田 和美
南大阪地域大学コンソーシアム	統括コーディネーター	難波 美都里
	事務局長代理	小林 慶行
	事務局	藤原 那津子

### 議事3「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座募集について

(1) 募集について

①公募方法：インターネットによる受け付けのみ

②募集期間：9月1日～9月30日

広報さかいを活用するなら10月1日～10月31日⇒講座は11月初旬

③広報：

- ・市教委から各学校に案内は可能か？
- ・できれば「広報さかい」を活用したい

### 議事4「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座の開講について

(1) 講座開講時期

10月下旬から11月

(2) 講座内容

今年度は、主に情報収集支援の実習を考えていることから、以下の内容とする。

- ・「子ども堺学」について
- ・キャリア教育について
- ・堺市の教育資源について

(3) 子ども堺学・キャリア教育サポーターの実習内容

- ・子ども堺学の教育資源の収集
- ・子ども堺学のモデル校の授業見学

## 議事5アンケート調査について

本取組は、実証的共同研究事業であることから、本事業の成果について、検証を行う。検証については、事前・事後・実施中において、アンケート調査やヒアリングにより行う。

### (1) 検証のポイント

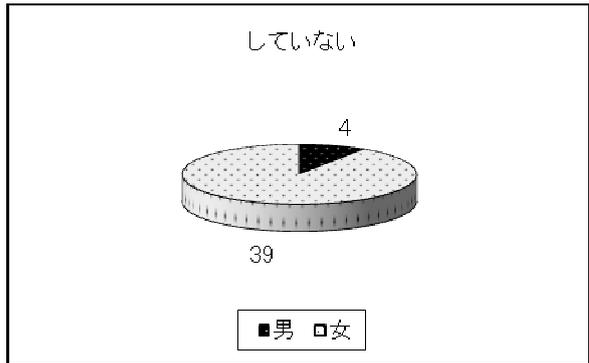
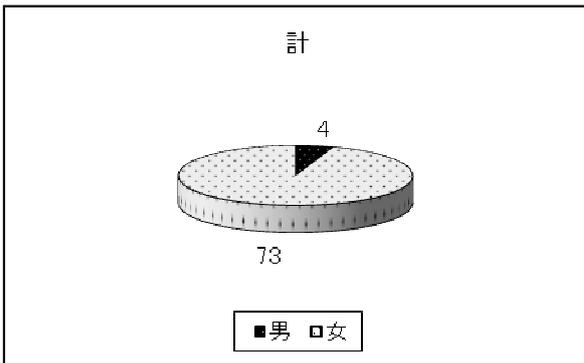
	調査内容	調査方法
①	育成する講座の内容が適しているかどうか	○受講生の受講後アンケート ○実習の成果結果を検証(収集した情報の質)
②	育成した人材が「子ども堺学・キャリア教育サポーター」として適した人材かどうか	○受講生の分析 ○教員からのニーズ調査(サポート人材に対する)
③	新しい公共の担い手育成モデルとして適っているか(例)講座数、開催日程等参加しやすい形になっているか、	○受講生の受講後アンケート ○応募状況分析

◆参考

「学校図書館サポーター養成講座」応募状況

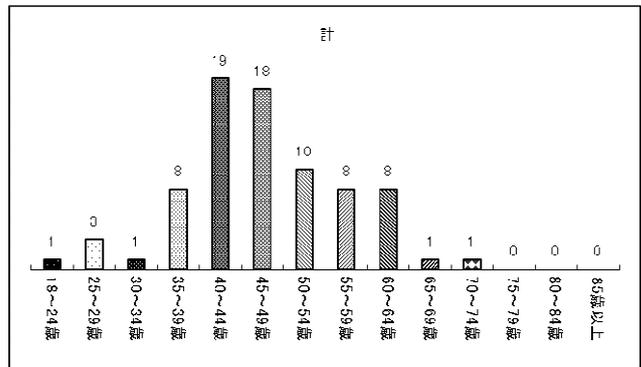
性別

	計	していない	している
男	4	4	0
女	73	39	34



年齢構成

	計	していない	している
18～24歳	1	1	0
25～29歳	3	3	0
30～34歳	1	1	0
35～39歳	8	4	4
40～44歳	19	10	9
45～49歳	18	9	9
50～54歳	10	6	4
55～59歳	8	4	4
60～64歳	8	5	3
65～69歳	1	0	1
70～74歳	1	1	0
75～79歳	0	0	0
80～84歳	0	0	0
85歳以上	0	0	0
合計	78	44	34



H24年度 文部科学省

「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」

学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公共の

担い手となる人材育成モデル構築をめざして

～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～

### 第1回協議会 議事録

日時：平成24年8月24日（金）10：00～12：00

場所：さかい新事業創造センター 2階会議室

出席者：文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課

船木 茂人（生涯学習推進係長）

堺市教育委員会学校教育部学校企画課

間地洋介（総括指導主事）

堺市市長公室企画部

坂本泰宏（主幹）

堺市市民人権局市民生活部

吉田和彦（協働事業推進担当副理事）

小山和正（副理事兼課長）

プール学院大学

岡崎裕（国際文化学部子ども教育学科准教授）

帝塚山学院大学

岩崎裕保（リベラルアーツ学部教授）

大阪大谷大学

中道厚子（人間社会学部人間社会学科教授）

桃山学院大学

今木秀和（副学長、南コンソ事務局次長）

大阪女子短期大学

北田和美（人間健康学科主任・教授、南コンソ南大阪地域講座委員会委員長）

南コンソ事務局

難波美都里（統括コーディネーター）、小林慶行（事務局長代理）、

藤原那津子（事務局員）

#### 《議事》

##### 1. ご挨拶

まず、今木秀和 桃山学院大学副学長／南コンソ事務局次長 および、船木茂人 文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課生涯学習推進係長 よりご挨拶をいただいた。

## 2. 事業説明

### (1) 事業の全体概要説明

資料1および3に基づき、難波統括コーディネーターより、本事業の全体概要について説明された。

### (2) 「子ども堺学」及びキャリア教育の現状について

間地総括指導主事より、堺市におけるこれまでのキャリア教育の取組みと「子ども堺学」の導入について説明があった。

また、子ども堺学の委員でもある岡崎先生、岩崎先生より、それぞれ「子ども堺学」についてご説明があった。

岡崎先生：子どもたちが地域の課題に関わることで、積極的な学びに繋がっていく。

「子ども堺学」とこの事業との相乗効果を図ることができればと思う。

岩崎先生：「子ども堺学」の実施にあたっては、子どもの学力向上に繋がることも大事。また、多文化共生社会における子ども堺学がポイント。

### (3) 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座募集について

難波統括コーディネーターより、受講生の公募方法や募集期間、広報に関して説明された。

<コメント・質疑応答>

吉田副理事：どういった方を公募するのかイメージしにくい。学校からのニーズもあると思うが。

難波統括コーディネーター：今回の受講生には、「子ども堺学」の教育資源の収集を手伝ってもらおう予定だが、今後はアスクネットに登録してもらって、学校のサポートに入ってもらおう。

岡崎先生：学校現場でサポートすることを受講生は期待していると思う。ただし、学校はデリケートな場所である。不適格な人をどこで線引きをするか考えないといけない。

小山課長：PTAや保護者、子ども会を巻き込んでいくことが、ひとつ有効な方法である。地域や校区に限られたものを全市的なものにしていくことに講座は有効であると思う。

岩崎先生：サポーターも多文化であってほしいと思う。例えば、定員の1割は日本文化以外を背景とした人を採用できるようにしてはどうか。

今木先生：学校現場に外国籍の子どもがいるなどあれば、そういったサポーターに入っていただくのが良いと思う。ただ、一定枠をおく必要はないのでは。現場に合わせて対応するようにしてはどうか。

岩崎先生：枠があると積極的に応募する人がいると思う。多文化に生きるということに気づくことが大事。

岡崎先生：ホームページにそういった文言をいれてはどうか。

難波統括コーディネーター：ホームページには募集の趣旨を明確に載せていきたいと思う。

中道先生：地元のことをよく知っている人が良いと思う。今後のことを考えると色

んな地区に住む人から応募があるのが良い。各区のバランスを考えるべきでは。今木先生；講座が今回のみではないのなら、今回は先着順にして、次回から優先する旨の文言を入れてはどうか。

中道先生：例えば、説明会を開いて、応募多数の場合は、地区ごとに分かれて抽選にしてみてもどうか。コンピューターで落とされるより、実際に顔を合わせたほうが、応募者は納得されるのではないか。

北田先生：応募する人がこの講座の具体的なイメージがしにくいと思う。

吉田副理事：「子ども堺学」・キャリア教育サポーター、がわかりにくい。

中道先生：説明会をして理解してもらった上で、応募してもらうのが良いのではないか。「子ども堺学」のPRにもなる。

以上の意見を踏まえて、応募を開始する前に説明会を開く方向で検討を進めることとなった。

#### (4) 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座の開講について

講義一覧が追加資料として配布され、難波統括コーディネーターより、講座の開催時期や講座内容等が説明された。

#### (5) アンケート調査について

難波統括コーディネーターより、本取組は実証的共同研究事業であることから、事前・事後・実施中においてアンケート調査やヒアリングを行い、検証を行うとの説明があった。

また、大阪府新しい公共の場づくりのためのモデル事業で実施した「学校図書館サポーター養成講座」の応募者について説明があり、年齢層（40代が中心）や性別の割合（9割以上が女性）など、これまでの生涯学習講座の受講生とは全く異なる特徴があったことが紹介された。

### 3. 新しい公共の担い手となる人材育成モデルについて（意見交換）

#### ・他地域との資格認定の互換制

難波統括コーディネーターより、「パスポートクラブ」の紹介があり、「パスポートクラブ」を運営する教育支援人材認証協会に、例えば、東京で教育支援人材認証協会の認証を取得した人が、堺市に引っ越してきた場合でもその資格を使える、といった相互認証をひとつの案として提案したことが説明された。

#### <コメント・質疑応答>

岡崎先生：単に「子ども堺学」のサポーターを育てるだけでなく、より一般的な学校教育サポーターを育てるプログラムにしていくべき。

最後に、船木生涯学習推進係長より、本日の会議で人材認証の際に事前にどういった検討をすべきか参考になった、との感想が述べられた。

以上の意見交換を終え、議事を終了とした。

H24年度 文部科学省  
「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」  
学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公  
共の担い手となる人材育成モデル構築をめざして  
～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～  
第2回協議会

日 時 平成24年12月20日(木) 10:00～12:00  
場 所 さかい新事業創造センター 2階会議室

〈次 第〉

議 事

1. 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座実施結果報告
  - (1) 受講生及び修了認定者について
  - (2) 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座を実施しての感想
  - (3) 受講生振り返り及びアンケート結果について
  - (4) スキルアップ研修での意見交換から
2. 各種研修の実施
  - (1) 子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修
  - (2) 子ども堺学情報収集資料作成
3. 子ども堺学・キャリア教育サポーター情報サイトの構築
4. 新しい公共の担い手となる人材育成モデル及び資格認定について（意見交換）
  - ・ 資格認定の意義について
  - ・ 他地域との資格認定の互換制
  - ・ 育成した人材の集約化をどう図るか
5. 報告書について

〈資料〉

- 資料1 養成講座講義一覧
- 資料2 受講生アンケート結果
- 資料3 子ども堺学・キャリア教育サポーター情報サイト
- 資料4 報告書目次

協議会委員名簿

文部科学省	社会教育課地域・学校支援推進室 室長	高木 秀人
	社会教育課地域・学校支援推進室	田村 明日翔
堺市教育委員会学校教育部	学校企画課 課長	松本 貴之
	学校企画課 総括指導主事	間地 洋介
堺市市長公室企画部	次長	三宅 貴
	主幹	坂本 泰宏
堺市市民人権局市民生活部	協働事業推進担当副理事	吉田 和彦
	副理事兼生涯学習課長	小山 和正
プール学院大学	国際文化学部 子ども教育学科 准教授	岡崎 裕
帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部 教授	岩崎 裕保
大阪大谷大学	人間社会学部人間社会学科 教授	中道 厚子
大阪府立大学	副学長 (南コンソ事務局長)	寺迫 正廣
大阪女子短期大学	人間健康学科主任・教授 (南コンソ南大阪地域講座委員会 委員長)	北田 和美
南大阪地域大学コンソーシ アム	統括コーディネーター	難波 美都里
	事務局長代理	小林 慶行
	事務局	藤原 那津子

## 議事1 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座実施結果報告

### 1. 受講生及び修了認定者について

#### (1) 開催時期、広報について

**開催時期** 11月9日、14日、16日、19日、22日（北八下小参観）

**広 報** 広報さかい掲載（10/1掲載）、生涯学習課で質問受付

**公募方法** インターネット、電話、ファックスにて受付

**説明会** 前回協議会の要望で、説明会を10/15（月）に開催  
説明会では、以下の内容で実施した。

- ① 堺市教委から堺市小中学校の教育方針と現状と課題について説明（間地）
- ② 南大阪地域大学コンソーシアムからは、子ども堺学について、めざすところ、内容、市民に期待するところ等について説明（岡崎）

#### (2) 講座の内容について

「子ども堺学」は、堺市教育委員会において、全国に先駆けて取り組んでおられる小中9年間一貫の地域の教育資源を活用した総合的な学力向上をめざした教育であることから、講座の内容は以下を中心とした。南コンソの「子ども堺学」協議会委員も適宜参加した。

- ① 堺市の教育が目指すところ（市教委 間地）
- ② 「子ども堺学」への理解（プール学院大学 岡崎）
- ③ 「子ども堺学」が目指すところの基本的な考え方の理解（帝塚山学院大学 岩崎）
- ④ 具体的実践事例の理解と体験（プール 石原、山崎）
- ⑤ 「子ども堺学」・キャリア教育サポーターとして何ができるかを考える
- ⑥ 情報収集するときの注意事項（羽衣国際大学 玉井）
- ⑦ 北八下小学校の公開授業の参観
- ⑧ 【課題】堺市の情報2種類を提出を修了認定の課題として義務付け

#### (3) 受講生及び修了認定者について

説明会参加者	応募者数	受講者数	修了認定者数
12	19	18	15

## 2. 「子ども堺学」・キャリア教育サポーター養成講座を実施しての感想

1日目（理論）	堺市の学校で実施する驚き、でも何をするのか？
↓	
2日目（役割）	サポーターの仕事を少し理解、でも不安と期待
↓	
3日目（体験）	体験を通してサポーターとして何が出来るかを考えるようになる
↓	
4日目（情報収集）	情報収集の難しさを実感、期待される役割に期待感
↓	
5日目（北八下小）	学校の授業に参加してさらに期待と役割意識が膨らむ

※受講生のほぼ全員から、「子ども堺学」が堺の子どもたちの学びとして取り組まれていることへの期待と、そこに自分たちができる役割があることを改めて自覚し、子どもたちの役に立てることは何でも協力したいとの発言が相次いだ。

## 3. 受講生振り返り及びアンケート結果について

資料2を参照。

## 4. スキルアップ研修での意見交換から

12/17（月）に実施されたスキルアップ研修では、研修の課題として出された「情報収集」の活動を通して、受講生が感じたことについて意見交換した。出された意見から、今後、子ども堺学ポータルサイトに掲載する情報の収集時に課題となる点について貴重な提案が出された。提案は以下の通り。

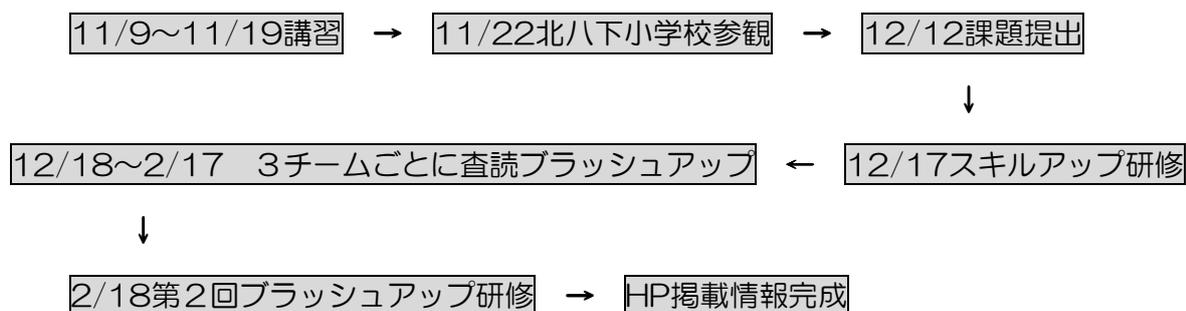
<情報収集の際に重要なポイント>

- ① フォーマットの標準化：収集した情報をまとめるときのもう少し丁寧なフォーマットが必要。例えば建物やソフトでは情報の形が違うので、項目ごとにフォーマットを定めることも必要。
- ② 身分証：調査やインタビューをするとき、身分が分かるようにすることが重要。
- ③ ネットワーク化：それぞれの項目で活動されている人や組織とネットワークを広げることで、情報収集がしやすくなるし、詳しい情報が手に入る。
- ④ 参考情報範囲を広げる：現在、教科書と堺市HPの範囲内で情報を取りまとめることが指定されているが、今後、例えば公的なHPなどや資料からもOKとする範囲をひ

ろげることで、より詳しい記述が可能となる。

- ⑤作成レベルの保証するシステムづくり：作成した人によってレベルがまちまちにならないために、レベルを担保するための研修や編集会議などシステムづくりが必要。
- ⑥情報の構造化：小1～中3と幅広い年齢層に対して、同じ情報では難しすぎたり物足りなかつたりするため、情報の表示のしかたを構造化し、**詳細レベル**や**学年レベル**等の導入により詳しく表示できるようにする。
- ⑦テーマにより学年レベルを合わせる：テーマによっては対象学年が変わるものがあるため、例えばハーベストの丘のように低学年が遠足などで行くところは低学年にレベルを合わせた表現とし、へのまつのように高学年で扱うものは高学年にあわせたレベルの表現とすることも必要。

#### <受講生の活動>



## 議事2 各種研修の実施

### (1) 子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修

受講生の振り返りのときの発言をもとに、子ども堺学サポーターとして、自分たちにできることを考え、どんな役割を担うことができるのかを、実際情報収集を行ってみて、改めてみんなで考える内容とした。

その中で、今後、市民としてどのように子ども堺学に関わっていけるかについて、意見交換し、将来への展望をみんなで考えた。

### (2) 子ども堺学情報収集資料作成

本講座を通しての課題として、堺の情報収集2種類の作成を課した。

○収集する情報は、①こちらから提供したテーマから1つを選択、②自由収集の2種

類とした。

○提出された情報については、書き方の見本を示したのだが、子どもたちにとっての分かりやすさという観点からは課題が散見され、今後研修するときの内容の検討課題としたい。

○市民それぞれがもっているフィールドをベースにした情報収集に期待あり

### 議事3 子ども堺学・キャリア教育サポーター情報サイトの構築

**目 的** 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座や実践事例等の情報サイトづくりをめざす。

**内 容** 目的を実現するために、情報提供型のサイトづくりとする

- ・養成講座情報の提供
- ・サポーターの実践事例紹介（将来）
- ・リンク集

### 議事5 新しい公共の担い手となる人材育成モデル及び資格認定について

新しい公共の担い手となる人材育成モデル	
資格認定	受講生からの意見 ①自分に対する動機づけ ②身分が分かることで説明しやすい、肩書

H24年度 文部科学省「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」  
学びから実践への循環型生涯学習社会を実現する大学・自治体連携型による新しい公共の担い手  
となる人材育成モデル構築をめざして

～教育の分野におけるサポーター養成・認定・研修制度を事例として～

### 第2回協議会

および

H24年度 大阪府「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」  
学校図書館サポーター養成・認定・研修制度の構築による学校図書館の活性化  
～新しい公共の担い手となる人材の育成モデルをめざして～

### 第3回協議会

議事録

日時： 平成24年12月20日（木）10：00～12：00

場所： さかい新事業創造センター 2階会議室

出席者： 文部科学省 社会教育課

高木秀人（地域・学校支援推進室 室長）

文部科学省 社会教育課

田村明日翔（地域・学校支援推進室）

堺市教育委員会学校教育部学校企画課

間地洋介（総括指導主事）

吉田真知子（指導主事）

堺市市長公室企画部

三宅貴（次長）

坂本泰宏（主幹）

堺市市民人権局市民生活部

吉田和彦（協働事業推進担当副理事）

プール学院大学

岡崎裕（国際文化学部子ども教育学科准教授）

大阪大谷大学

中道厚子（人間社会学部人間社会学科教授）

大阪府立大学

寺迫正廣（副学長、南コンソ事務局長）

南コンソ事務局

難波美都里（統括コーディネーター）、小林慶行（事務局長代理）、

藤原那津子（事務局員）

まず、難波統括コーディネーターより、本日の合同協議会について、同じ人材養成のスキームをベースとして実施してきた「学校図書館サポーター養成講座」と「子ども塚学・キャリア教育サポーター養成講座」の受講生の特徴などを比較しながら、スキームの検証を行い、議論をいただきたいと考え、今回、合同開催とさせていただいた、また、今回がそれぞれの事業の最後の協議会となる、と説明があり、並行しながら議事を進めて行くこととなった。

#### 《議事》

##### 1. 第2回学校図書館サポーター養成講座実施結果報告

- (1) 受講生及び修了認定者について
- (2) 学校図書館サポーター養成講座を実施しての感想
- (3) 受講生振り返り及びアンケート結果について

##### 1. 子ども塚学・キャリア教育サポーター養成講座実施結果報告

- (1) 受講生及び修了認定者について
- (2) 子ども塚学・キャリア教育サポーター養成講座を実施しての感想
- (3) 受講生振り返り及びアンケート結果について
- (4) スキルアップ研修での意見交換から

難波統括コーディネーターより、「第2回学校図書館サポーター養成講座」および「子ども塚学・キャリア教育サポーター養成講座」の実施結果報告が行われた。また、講師および堺市担当者より、それぞれの講座に関してコメントをいただいた。

#### 第2回学校図書館サポーター養成講座

- ・ 受講生は、女性の比率が高く、40代前後が大半であった。M字曲線の減少する世代が参加している。従来の生涯学習とは異なり、特徴的。
- ・ 受講生の大多数が、今後、活動に活かしたいと考えている。
- ・ 受講する上での支障は「時間」が多かった。大半が子育て世代ということで、今後は時間的制約をどう解消するかが課題。講座の時間設定を考えなければならない。

中道先生：受講生は皆さん意欲が高い。スキルアップしながら継続的に回る仕組みがあれば、と受講生からも声が上がっていた。

吉田指導主事：これまでサポーターとして活動されてきた方の中には、すでにボランティアとして経験のある方や新たにサポーターになられた方もおり、レベルの差があったが、今回の講座では市の目指しているものを示し、また、専門的知識や生涯学習について中道先生からお話いただき、一律に伝えることができた。今後、全市にどう広げていくかが課題だと感じている。

#### 子ども塚学・キャリア教育サポーター養成講座

- ・ 受講生数は15名と学校図書館サポーターよりは少なかったが、非常に熱心な方ばかりだった。
- ・ モデル校の授業体験や公開授業への参加を通して、サポーターとして何ができるか、受講生自身に考えてもらった。学校図書館サポーターとは異なる進め方であったが、受講

生と一緒にサポーターの体制を考える場となった。

岡崎先生：受講生は40～50代の子育ての手の離れた世代と60～70代の定年を迎えた世代の2層に分かれているが、全体的にレベルが高い。講座でも率直な意見が挙がっていた。今回の講座は、すでに市民社会にある既存のネットワークやスキルを次に繋げていくためのきっかけづくりだったのではないかと思う。

また、実施報告の後、以下のコメントをいただいた。

吉田副理事：南コンソが持つ大学の資源を活用して、地域の人材育成を共同事業で実施できたことは意義があり、モデル的な事業であったと思う。学んだ人達をどうしていくかが次の課題だが、活動を希望される方には、市民活動コーナーに来ていただければ「はまでら4つの「や」図書館」といった地域のNPOや生涯学習の場を紹介できると思う。この仕組みをどう大きくしていくかを一緒に考えていきたい。

高木室長：地域の方々に学校を支援していただくのがひとつのミッションであるので、地域の教育力を向上させるためにこういった講座を通してスキルアップしていただくのは大変ありがたいが、今後の活動に繋げていくためには、学校側の教職員の意識というのがひとつの課題ではないかと思う。

## 2. 各種研修の実施

- (1) 区ごとの情報交換会
- (2) 学校図書館サポータースキルアップ研修
- (3) 学校図書館担当教員のための学校図書館司書教諭（学校図書館担当）研修
- (4) 学校図書館職員研修

## 2. 各種研修の実施

- (1) 子ども堺学・キャリア教育サポータースキルアップ研修
- (2) 子ども堺学情報収集資料作成

難波統括コーディネーターより、各事業で実施した研修について報告された。

### 学校図書館サポーター養成講座

- ・ 情報交換会および、スキルアップ研修、司書教諭研修をすでに実施した。
- ・ 情報交換会は、学校図書館担当教員および地域図書館との情報交流の場として教育委員会が開催しているものだが、受講生のスキルアップ研修の一環として参加させていただいた。
- ・ 学校図書館職員へのアドバイスとスキルアップのための研修も実施予定である。

### 子ども堺学・キャリア教育サポーター養成講座

- ・ 12月17日に実施したスキルアップ研修では、情報収集を通して感じたこと、課題について意見交換を行い、受講生から貴重な提案が出された。
- ・ 2月18日にさらにブラッシュアップ研修を実施予定である。

### 3. 学校図書館実態調査について

#### (1) 調査の目的、実施時期

#### (2) 調査内容

難波統括コーディネーターより、7月に行った学校図書館実態調査について報告された。本調査は文部科学省が実施している調査とは重ならない項目について実施した。

調査結果について、中道先生より、学校間の差が見られたが、今現在の堺の状況を知る基本資料になると思う、とコメントをいただいた。

### 4. 学校図書館サポーター情報サイトについて

#### (1) サイトの内容

難波統括コーディネーターより、養成講座や学校図書館の実践事例の紹介等をまとめた学校図書館サポーター専用サイトについて紹介があり、サイトの形を色々と検討したが、自由に意見交換をしたり、質問に回答したりする形ではなく、情報提供型のサイトにした、と説明があった。

また、吉田指導主事より、スキルアップ研修で上がってきたサポーターからの質問や悩みに対しては、教育委員会にて学校図書館職員と共有し、今後、「学校図書館のてびき」をブラッシュアップする形で回答できないか検討している、と説明があった。

### 5. 新しい公共の担い手となる人材育成モデル及び資格認定について（意見交換）

#### <資格認定について>

難波統括コーディネーター:子ども堺学サポーターの受講生に資格認定についてアンケートをとったところ、資格認定してほしいという意見が多数であった。スキームがまだできていないため、1期生として何らかの資格がほしいということだと思う。学校図書館サポーターは、資格有無に関わらず、すでにアシストネットに登録するというステップがある。

坂本主幹:資格を認定するのはどこになるのか?

難波統括コーディネーター:資格を認定するのは南コンソになる。

三宅次長:何をするかによって資格の有無は変わってくると思う。対外的な影響力を及ぼすときには有効になるのでは。

吉田副理事:子ども堺学の方は、範囲が広いので資格認定が必要かもしれない。学校図書館は、資格を持っていてもサポーターとして活動できるとは限らないので資格認定してもメリットはないかもしれない。ジャンルや次の具体的な活動に役立つかどうかで判断が変わってくると思う。

難波統括コーディネーター:子ども堺学サポーターについて、教育委員会としては教育に関わるので資格があったほうがよいか?

間地総括指導主事:子ども堺学サポーターは、学校でどう活動できるか、まだイメージが具体的ではない。学校によってカリキュラム編成も全く異なる。

難波統括コーディネーター:せっかく受講していただいた人達をこのまま放っておくのはもったいない。

中道先生：子ども堺学サポーターが集めた情報を学校図書館に置いてもらえると貴重。資料として成果を置いてもらい、場合によっては、作成者と直接話をしてもらえる機会があれば、出会いの場にもなる。

岡崎先生：資格認定の意義は3つあると思う。1つは対外的評価。客観的な指標になる。2つ目は、行政にとっての保険になりうるもの。直接的ではなくても、公的に認めることができる。3つ目は、本人の動機付け。多くの市民に自分達が役に立っているという実感を持っていただく必要があると思う。ただ、「子ども堺学サポーター」は、あまりにピンポイント。活動できないと、「なぜ学校に参画できないんだ」と声が上がると思う。それをクリアするために、もう少し広がりを持って、例えば、「市民活動貢献サポーター」といったあいまいな形にするのもひとつの方法だと思う。

高木室長：カリキュラム編成にまで関わっているのは、PTAのOGが多く、OGがコーディネートをしてボランティアを連れてくる。資格は持っていない。学校で活動することを考えると、そこまで資格にこだわる必要はないのでは。動機付けには有効だが、多くの人に学校に関わってほしいので、資格でフィルターをかけたくない。

中道先生：自分を客観化できる状態はスキルアップしたい人達にとっては大きな動機になる。学んだことを目に見える形にするひとつのツールとして、資格を上手く使えないかと思う。市民にわかりやすい形として、資格認定を人材育成の仕組みに上手く組み込んでほしい。

難波統括コーディネーター：今回重要なのは、学びという履歴を入れたこと。従来、学校図書館サポーターは、特に教育を受けずにアシストネットに登録して学校に入っていたが、今回、きちんと基礎的知識を学んでから学校に入るというスキームができた。

高木室長：学校に入っただけの人達に一定の基礎知識を付けていただくのは良いと思うが、学びを前提としたスキームにはしていただきたくない。すでに入っている人のための学びがあるのは良いと思う。ただ、安全性の観点から、ある程度フィルターをかけたいというのも理解できる。

吉田副理事：南コンソが資格認定をすとしても、そういった資格があるというのは市も一緒にPRできると思う。また、「いきいき堺市民大学」を卒業された方は、次の活動に備えてグループを作っている。そういったネットワークも参考にできるのでは。

岡崎先生：保護者や地域の人達との連携は不可欠だが、現場的には子ども堺学を立ち上げるにしてもそれだけでは足りない。タイプや年齢層も限られている。そういう状況で知識やスキルを持った人達をいかに集めるか、仕掛けの一部として資格認定を位置づけるのであれば、資格はあくまで名目、仕掛けに過ぎないと思う。

難波統括コーディネーター：今回の講座では、「資格認定」ではなく「修了認定」で留めている。報告書でも資格認定をどう考えるか項目を立てたいと思う。

岡崎先生：ただ、やはりピンポイントの資格はリスクが大きいと思う。

難波統括コーディネーター：仕掛けのひとつとしては有効であるということと、次の活動に繋げて役に立つかどうか重要なポイントかもしれない。

中道先生：学んだ人達は修了証を手にしながらか次のステップを待っていると思う。

資格認定よりは、学びの履歴があると良いかもしれない。

岡崎先生：学んだ履歴があると、活動するときの参考になる。

難波統括コーディネーター：資格を出すのはまだリスクが大きいですが、学びの履歴を残すのは意味がある。

<新しい公共の担い手となる人材育成モデルについて>

吉田副理事：育成して実践に繋げていくのは意義がある。なかなか難しいが継続してほしい。

難波統括コーディネーター：今後の広がりとしては、市としてはどのように考えているか？

坂本主幹：観光ボランティアや子育てなど、このシステムに乗らなくてもすでに回っている分野もあるので、そういった分野は改めてこのシステムに組み込む必要はないと思う。

間地総括指導主事：図書館サポーターに類するものは、地域のボランティアなどすでに存在していたが、それだけでは足りなかった。ある程度専門的知識を持った人を育てて、活用するというのは、ニーズにもぴったりにあった。子ども塚学サポーターは、子ども塚学の取り組みがまだこれからの段階でサポーターを養成した。少しステップが違う。同じように資格認定しようとしているが、資格の持つ意味は少し違ってくると思う。

難波統括コーディネーター：子ども塚学サポーターは情報収集に特化しているが、今後、学校の実践が広がればもっと役割が出てくるかもしれない。

高木室長：学校側として図書館や放課後支援は使いやすい。しかし、子ども塚学は学校教育そのものなので、地域の方を活用することについて学校側の熟度も必要になってくると思う。

難波統括コーディネーター：受講生自身も自分の役割をよくわかっていて、教育に入り込むというよりはフィールドワークの付き添いなどの側面支援を考えている。

岡崎先生：今回の受講生とは、学校の公共性と安全性を配慮してこういった形で市民が関われるか議論ができたが、今後もそういった客観的視点を持った方ばかりが受講するとは限らない。今の段階では、あくまで講座の修了認定として、資格を認定するとしても、「学校ボランティア」というようなあいまいな形が良いのではないかと思う。

## 6. 報告書について

最後に、難波統括コーディネーターより、事業報告書の目次案が説明され、それぞれの講師やご担当者に分析など執筆をお願いしたいとの依頼があり、以上でもって、議事を終了とした。



発行年月 平成25年3月15日  
発行者 特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム  
編集 特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム  
堺市北区長曾根町130-42 さかい新事業創造センター1階  
TEL (072) 258-7646 FAX (072) 258-7641  
印刷・製本 株式会社淀川工技社